

令和5年度 岐阜大学Topics



— 目 次 —

【教育】

- ・ 令和5年度入学式を挙行 2
- ・ 岐阜大学が「東海情報通信懇談会会長表彰」を受賞 3
- ・ 「栄養ワンダー」を開催 4
- ・ 世界最大のシミュレーションセンター(医学教育施設)所長の特別講演を開催 5
- ・ 地域科学部 牧 秀樹 教授 が「小学生版 最小英語テスト(eMET)ドリル」
を出版 6
- ・ 教職大学院学校管理職養成コース派遣教員と岐阜県教育委員会との懇
談会を開催 7
- ・ 日本語指導が必要な子どもたちを対象としたカードゲーム教材
「いみあわせかあど」を発売 8
- ・ フェ大学(ベトナム)の学生と観光プランを作成し現地でプラン検証を実施 9
- ・ 令和5年度学位記授与式を挙行 10

【研究】

- ・ 多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」連携型共同研究助成授与式
を開催 12
- ・ 地域新電力会社が提供する経済的・社会的価値を可視化 13
～ 最大で約7.3億円の金額価値を算出 ～
- ・ 犬悪性黒色腫症例に対する合成マイクロRNA-634を用いた新規治療法
の開発 15
- ・ 重水素MRIを用いたがん治療効果の早期予測法を開発 16
- ・ 傷ついたDNAの修復機能において重要な「ポリ(ADP-リボース)」の部分
構造の高効率な合成法の開発に成功 17
- ・ 世界初、2枚の画像だけで品質検査ができる汎用外観検査AIを開発 18
- ・ SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)第3期において産業用熱利用
分野におけるアンモニア利用の研究開発を開始 19

— 目 次 —

【国際化】

- ・ ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問 22
- ・ 日本語・日本文化教育センター 郡上踊りワークショップを開催 23
- ・ 在岐阜リトアニア共和国名誉領事及び駐日リトアニア共和国大使にリトアニア共和国との交流状況を報告 24
- ・ 在マレーシア国民大学副学長等が本学を訪問 26
- ・ マリアノ・マルコス州立大学学長等が本学を訪問 27
- ・ リール大学副学長等が本学を訪問 28
- ・ 社会システム経営学環及びグローバル推進機構の教員がフエ大学を訪問 29
- ・ 岐阜大学ペタンク体験&大学対抗ペタンク大会を開催 30
- ・ 国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか
- ChatGPT時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？
-」を開催 31
- ・ ノーザンケンタッキー大学国際教育センター事務局長が本学を表敬訪問 32
- ・ 岐阜大学大学院連合農学研究科が「IC-GU12 Roundtable 2023」等を開催 33
- ・ ヴィータウタス・マグヌス大学農業アカデミー学部長らが本学を訪問 34

【社会貢献】

- ・ 本学教育学部保健体育講座 春日研究室が「Sport in Life 2022賞」を受賞 36
- ・ 地域ラボ・高山オープニングセレモニーを開催 38
- ・ 地域ラボ・中津川及び地域ラボ・岐阜のオープニングセレモニーを開催 39
- ・ 「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」大学見学会を開催 40
- ・ FC岐阜主催イベント「脱炭素社会を考える日」に展示ブースを出展 42
- ・ 安八町と連携に関する協定を締結 43
- ・ SPARC-GIFU地域連携プラットフォームを結成 44
- ・ 愛知銀行および中京銀行と「産学連携活動の協力に関する協定」を締結 45
- ・ 垂井町と連携に関する協定を締結 46
- ・ 神戸町と連携に関する協定を締結 47

— 目 次 —

【社会貢献】

- ・ 池田町と連携に関する協定を締結 48
- ・ 「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、学生が揖斐川町に住み始めます 49
- ・ 第1回SPARC-GIFUシンポジウムを開催 50
- ・ 白川町と連携に関する協定を締結 51
- ・ 川辺町と連携に関する協定を締結 52

【大学病院】

- ・ 医学部附属病院 小倉 真治 高次救命治療センター長が令和5年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞 54
- ・ 肝硬変患者における外的刺激に対する反応速度と正確性の低下を国際多機関共同観察研究により証明 55
- ・ クリスマスツリー点灯式を開催 56
- ・ 能登半島地震被災地より当院DMATの第1次隊が帰院 57
- ・ 東海環状・飛騨医療ネットワーク協定締結式を実施 58
- ・ 国立がん研究センターと教育・研究・医療等の包括的連携協力に関する協定を締結 59

～ 学生活動等 ～

- ・ 応援奨学生決定通知書交付式を実施 62
- ・ 岐阜県新酒鑑評会において岐阜大学大学院の学生が岐阜大学長賞の選考を実施 63
- ・ 本学学生がVR/ARの国際大会で大賞を受賞 64
- ・ 本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2023」で優秀賞(2位)等を受賞 66
- ・ 本学教育学部附属小中学校の特別支援学級生徒の絵をあしらった手提げ紙袋を作成 68

～ 学生活動等 ～

- ・ 本学学生チームが「愛知県大学対抗ハッカソン “HackAichi2023”」で最優秀賞等を受賞 69
- ・ 岐阜大学フォーミュラレーシングが「学生フォーミュラ日本大会2023」において総合3位を獲得 70
- ・ 本学学生チームがVR大会「IVRC2023」において複数の賞を受賞 71
- ・ 岐阜大学環境サークルG-ametが複数の大会で賞を受賞 73
- ・ 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催 74
- ・ 本学学生チームがプログラミング作品の制作大会「技育CAMPアドバンス Vol.4」において大賞を受賞 76
- ・ 学生の提案で「丸亀シャカシャカ揚げうどん」が商品化 78

～ その他 ～

- ・ 創立74周年記念日行事を開催 80
- ・ 本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが日本陸上競技選手権大会で初優勝 81
- ・ 岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念行事を開催 82
- ・ 岐阜大学発認定ベンチャーFiberCrazeの長曾我部代表取締役社長がForbes JAPANが選ぶ日本発「世界を変える30歳未満」の1人に選出 84
- ・ 教育学研究科修了生の赤松選手が世界陸上男子走高跳で8位入賞 85
- ・ 岐大酒を酒造している「蔵元やまだ」がKURA MASTER 2023年度プレジデント賞を受賞 87
- ・ 図書館1階アカデミック・コアの愛称が「Sky ACADEMIC CORE」に決定 88
- ・ 第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023を開催 89
- ・ 第74回岐阜新聞大賞 90
- ・ 岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施 91
- ・ 全学共通教育棟1階多目的ホールの愛称が「IBIDEN Innovation Hub」に決定 92

～ 国立大学法人東海国立大学機構 ～

- ・ 東海国立大学機構直轄事業として新たに2つの拠点を認定 94
- ・ 東海国立大学機構は研究シーズ検索システムをリリース 95
- ・ 岐阜大学・名古屋大学における飛行ロボット(自律滑空機)授業の
連携した取り組みが日本機械学会教育賞を受賞 96
- ・ 糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟の開所記念式典を挙行 97
- ・ 東海国立大学機構債(東海機構コモンズ債)の発行条件を決定 99
- ・ 「低温プラズマ総合科学研究拠点」が始動 100
- ・ 東海国立大学機構の最先端講義、配信スタート 6月24日キャンパス内
で自動運転実演授業を実施 101
- ・ 脱炭素社会の実現へ“産産学学官官”連携 102

～ カーボンニュートラル共創シンポジウム開催 ～

- ・ 永岡桂子文部科学大臣が「糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟」を視察！ 103
- ・ 国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2023を公表 104
- ・ 東海国立大学機構初の出資子会社Tokai Innovation Institute設立 105
- ・ 東海国立大学機構 統合報告書「INTEGRATED REPORT2023」を発行 106
- ・ 財務レポート2023を発行 107
- ・ 第1回 東海地域・国立大学連携プラットフォーム(C-FRONT)学長懇談会
を開催 108
- ・ 川崎重工業株式会社から東海国立大学機構にアーム型ロボット50台を
寄贈 110
- ・ 東海国立大学機構は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社と人獣共
通医療学(Sharing Medicine)分野に関する包括連携協定を締結 112
- ・ 東海国立大学機構は岐大、名大の新たな連携拠点として「量子フロンティア
産業創出拠点」を認定 114

教育



- ・ 令和5年度入学式を挙行
- ・ 岐阜大学が「東海情報通信懇談会会長表彰」を受賞
- ・ 「栄養ワンダー」を開催
- ・ 「世界最大のシミュレーションセンター(医学教育施設)所長の特別講演を開催
- ・ 地域科学部 牧 秀樹 教授が「小学生版 最小英語テスト (eMET) ドリル」を出版
- ・ 教職大学院学校管理職養成コース派遣教員と岐阜県教育委員会との懇談会を開催
- ・ 日本語指導が必要な子どもたちを対象としたカードゲーム教材「いみあわせかあど」を発売
- ・ フエ大学 (ベトナム) の学生と観光プランを作成し現地でプラン検証を実施
- ・ 令和5年度学位記授与式を挙行



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

令和5年度入学式を挙行

【概要】

本学は、令和5年4月7日（金）に、長良川国際会議場にて令和5年度入学式を行い、学部学生1,324名、大学院学生642名が入学しました。なお、式典は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため3回に分けて執り行い、その様子を在学生や保護者向けに本学公式YouTubeチャンネルからライブ配信しました。

吉田学長は、学部入学生に向けて「大学における勉学は、これまでの受け身的な学習ではなく、自分自身で考え行動し、一生懸命努力することを身につけてください」と述べ、また、大学院入学生へは「大学で何を学ぶか、何のために学ぶか、学んだものをどう社会で活かすのか、この問いを常に考えながら研究に励んでください。私共も皆さんと一緒に考えたいと思います」と告辞を述べました。

式典では、大学院入学生を代表して医学系研究科の植竹望さん、学部入学生を代表して教育学部の大脇杏菜さん、応用生物科学部の芦塚壱臣さんが宣誓を行い、「学業や研究に専念し、将来の日本の社会を担う力を育むため日々努力する」と抱負を語りました。



入学式の様子



宣誓する応用生物科学部 芦塚さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/4/8	岐阜	学業や研究 努力誓う 岐阜大・大学院が入学式 ～ 吉田和弘 学長, 教育学部 大脇杏菜さん ～
2023/4/8	中日	岐阜大生一同が新たなスタート ～ 吉田和弘 学長, 教育学部 大脇杏菜さん ～

岐阜大学が「東海情報通信懇談会会長表彰」を受賞

【概要】

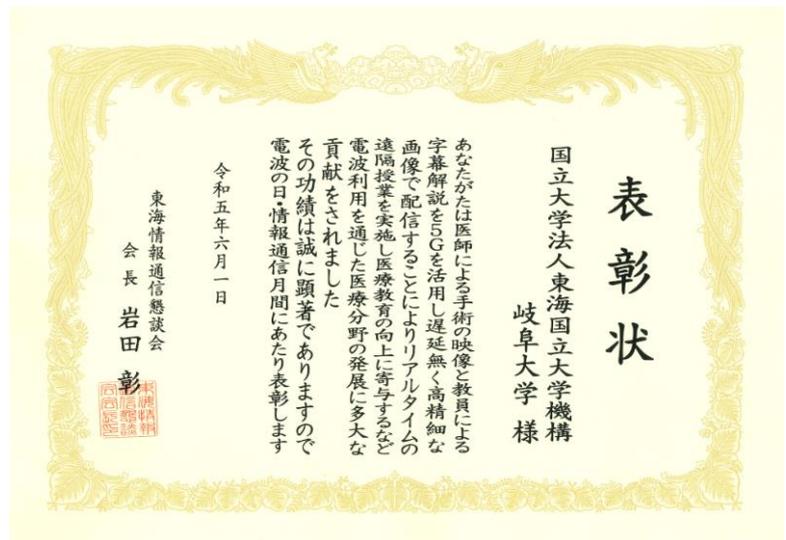
総務省東海総合通信局と東海情報通信懇談会が実施する令和5年度「電波の日・情報通信月間」記念式典が、6月1日（木）に名古屋市内のホテルで開催され、岐阜大学が「東海情報通信懇談会会長表彰」を受けました。

式典では、電波利用や情報通信の発展に貢献した個人・団体に対する表彰が行われました。このたび本学が受けた表彰は、岐阜大学医学部附属病院腫瘍外科と岐阜大学医学教育開発研究センター（MEDC）との共同研究である、医師による手術映像と同時に教員が字幕解説する授業について、5Gを活用することで、リアルタイムで遅延なく高精細な遠隔授業の実施を可能にしたことが、医療者教育の向上に寄与するなど電波利用を通じた医療分野の発展に多大な貢献をした、と評価されたものです。当日はMEDCの西城卓也センター長が式典へ出席し表彰状を受け取りました。

本学は今後も、電波利用や情報通信技術を駆使するなどして尖端的な教育・研究開発に取り組み、その成果をさまざまな形で社会へ還元できるようにしていきます。



MEDC西城センター長



表彰状

「栄養ワンダー」を開催

【概要】

令和5年7月7日（金）、12日（水）に、保健管理センターと生協第一食堂の共催で、栄養ワンダーを開催しました。栄養ワンダーとは日本栄養士会が企画する「栄養の日、栄養週間」に合わせて実施されるイベントで、今年度は「間食」をテーマに、現代に即した栄養のあり方を教育、提案するものです。

7日（金）は、協賛社から提供されたキウイフルーツと牛乳、日本栄養士会が制作・発行した指導媒体を無料配布しました。開始前から長蛇の列となり、先着200名を対象にした配布会は約25分で終了となりました。

12日は（水）は、保健管理センターの管理栄養士による間食に関する講話、キウイフルーツと牛乳を使った間食（デザート）の試食会、生協第一食堂によるCOOP夏フェスタ（岐阜大生が岐阜大で作ったお米と野菜を使った生協メニューの紹介）の案内、保健管理センターの保健師による熱中症予防に関する講話、参加者間の交流を行いました。事前申し込みと当日参加合わせて26名の学生が参加しました。

栄養ワンダーを通じて、学生の食に関する関心と理解が深まり、毎日の食生活に生かされることを期待します。保健管理センターでは今後も「食」を通じた健康教育を行い、心身の健康管理に努め、学生一人ひとりが健康でより良い生活を送れるようサポートしていきます。



配布の様子（7日）



講話の様子（12日）

「世界最大のシミュレーションセンター(医学教育施設) 所長の特別講演を開催

【概要】

医学教育開発研究センターと保健管理センターは、特別講演“The Future of Healthcare Education and Experimental Learning”（医学教育と臨床研修の未来）を令和5年6月21日（水）に医学部記念会館において開催しました。

講演者のDr. Haru Okuda(奥田康晴先生)は幼少期から米国で教育を受け、メディカルスクール卒業後は救命救急医学の道に進まれました。その後、医療専門職の資質向上やチーム医療の重要性を認識され、シミュレーション医学教育の分野で活躍し、ヘルスケアシミュレーション学会(Society for Simulation in Healthcare)の前会長も務められました。今やこの分野の権威です。

今回は、本学の協定大学である南フロリダ大学の医学教育シミュレーションセンター所長として来日されました。同センターは、医療に関わるすべての職種を対象に技術研修・チーム医療の醸成を担う医学教育施設で、世界最大のシミュレーション病院です。当日は世界最先端の医療専門職トレーニングセンターの現場についてお話しいただき、対面およびオンラインで多くの医学部学生・教職員、および医学部附属病院教職員が聴講しました。

また、日本の医学教育をリードする本学医学教育開発センターや、地域医療人の育成に尽力する地域医療医学センター、シミュレーション教育に力を入れている消化器外科学、救急・災害医学の教職員とも交流を行いました。今後の益々の交流発展が期待されます。



世界最大の南フロリダ大学
シミュレーションセンター



医学部附属病院高次救命治療センター訪問
(松田操縦士と川崎医師とともに)
協力：セントラルヘリコプターサービス株式会社

地域科学部 牧 秀樹 教授が 「小学生版 最小英語テスト (eMET) ドリル」を出版

【概要】

最小英語テスト「MET」は A4 用紙 1 枚に約 70 単語の空所を設けた、3 分程度の単語穴埋め式リスニングテストです。「日本人学生の英語能力を 5 分で測るテスト」の開発を目標に研究を始めました。このテストはセンター試験や TOEIC などの英語テストの成績と相関があることがわかっています。

この本は小学生版として、小学 5・6 年生で学ぶ文法項目をすべて網羅するよう構成しています。すでに英語の勉強を始めているお子さんには、力試しとして、また、中学生や英語からしばらく遠ざかっている方には、小学校英語のおさらいとしても使えます。テストを 24 題収録。音声は HP よりダウンロードできます。

※ 書籍について



小学生版 最小英語テスト (eMET) ドリル
【著者／編集】牧 秀樹 (地域科学部・教授)、西田 雛

出 版 社 : 開拓社
発行年月日 : 2023年9月19日
定 価 : 1,210円 (税込)
ISBNコード : 9784758923378

教職大学院学校管理職養成コース派遣教員と 岐阜県教育委員会との懇談会を 開催

【概要】

令和5年10月20日（金）に、岐阜県教育委員会から岐阜大学教職大学院学校管理職養成コースに派遣されている現職教員の2年院生13名が、本学が主催する教育委員会との懇談会において開発実践報告の中間発表を行いました。

開発実践とは、教職大学院の学修の中核であり、学校や地域から委託された教育課題を解決するための実践を開発するものです。懇談会では、院生それぞれが取り組み状況を報告し、岐阜県教育委員会の中村高校教育課長、青木義務教育課長、高橋教員人事管理監、浅井教育主管から講評をいただき、今日の学校教育課題に取り組んでいることなどが評価されました。また、管理職として教育を充実させるためには、教職員とのコミュニケーション、校長としてのパッションに加えデータに基づく説明、外部評価の活用が重要であること、そして開発実践の成果を明確にし、その成果を学校現場に還元することなど、一人一人に対して温かいコメントやアドバイスがありました。

本懇談会は、教職大学院の学修が管理職としての力量を向上させるとともに、委託された課題の解決を通じて学校や地域に資するための貴重な機会となりました。



発表の様子



講評の様子

日本語指導が必要な子どもたちを対象とした カードゲーム教材「いみあわせかあど」を発売

【概要】

本学教育学部学校教育講座の今井亜湖教授が監修し、日本語指導が必要な子どもたちを対象としたカードゲーム教材「いみあわせかあど」を発売しました。「いみあわせかあど」は、日常会話は可能でも授業参加が困難な子どもたちのための教材です。今井教授の研究室が児童生徒の教育支援の一環として開発しました。

昨年12月から今年1月にかけて実施したクラウドファンディングで、教材制作費と配布費用のための寄附を募り、目標を超える支援を受けました。その際の応援メッセージに共感した株式会社文溪堂の水谷代表取締役社長の協力により、教材の販売が実現しました。

本学は、教育・研究活動で得られた知見を社会へ還元し、より良い教育環境の実現に向けて、引き続き教育支援に注力します。

※ 開発者の今井教授からメッセージ：

日本語指導を必要としている児童生徒への新しい教育の形を提案する教材として「いみあわせかあど」を開発しました。ご家庭や学校等で多くの方々に活用されることを願っています。

カードゲーム教材

外国にルーツを持つ児童が遊びながら学べる

いみあわせかあど
IMIAWASE CARD

【セット内容】
カード60枚
(絵詞30話×2枚)
1,100円（税込）

The advertisement features a red background with white and yellow text. It includes an illustration of a classroom scene with children and a teacher. The product is shown as a red box and a stack of cards. The text highlights that the game is designed for children with foreign roots to learn Japanese while playing.

フエ大学（ベトナム）の学生と観光プランを作成し 現地でプラン検証を実施

【概要】

グローバル推進機構及び社会システム経営学環、地域協学センターが担当する全学共通教育科目「グローバルリーダー実践」及び社会システム経営学環専門科目「観光デザイン実習」において、フエ大学（ベトナム）観光学部の学生らと共にフエ滞在型の観光プラン案の作成を行い、現地でプランの検証を行いました。また今回の研修は、岐阜大学次世代地域リーダー育成プログラム・グローバルリーダーコースの活動の一環として実施しました。

岐阜県とベトナムトゥアティエン＝フエ省は、2016年11月に友好提携を締結して以降、様々な分野で交流を行っています。これに伴い、フエ大学と岐阜大学は、2018年に学術交流協定を締結しており、本科目の取組はこの協定に基づくものです。

本科目において、受講生はフエ大学観光学部の学生と数カ月間に渡りオンラインで交流し、協力して日本の若者に向けたフエ滞在型の3日間の観光プラン案を作成しました。本科目の締めくくりとして、令和6年3月5日（火）～3月14日（木）の10日間、受講生10名がフエ市に滞在し、作成したプランにそって観光し、プランの検証を行いました。また、滞在中にフエ省人民委員会・観光局を訪問し、フエ省の観光資源や現在の観光客の動向等を詳しく紹介いただきました。最終日にはブラッシュアップした観光プランを提案しました。提案時には岐阜県庁国際交流課の方々にもオンラインで参加いただき、講評をいただきました。

本学は地域の国際的な多様性に伴う諸課題を解決できる人材を育成すると共に、この取組が本学およびフエ大学の学生交流の更なる促進と、岐阜県・フエ省の一層の交流活性化に発展していくことを期待しています。



フエ大学観光学部学生との史跡等の観光資源の
実地調査の様子



フエ大学外国語大学日本語日本文化学部学生との
交流の様子

令和5年度学位記授与式を挙行

【概要】

本学は、令和6年3月25日（土）、長良川国際会議場にて令和5年度学位記授与式を執り行いました。式典は、コロナ禍以降初めて卒業生・修了生が一堂に会する形式で開催しました。

式典では、学部学生1,279人、大学院学生564人の卒業生・修了生に向けて、吉田和弘学長が「みなさんは岐阜大学での学びの中で、それぞれの課題に向き合い、恩師や仲間との議論を通じて、課題解決やSociety5.0の実現に取り組んできました。さらに、コロナ禍という苦境を乗り越え、レジリエンスを身につけた経験を生かし、これまで皆さんが蓄えたエネルギーを大いに活用し、前途洋々たる未来に向かって元気に活躍されることを願っています」と告辞を述べました。

また、卒業生代表の謝辞では、医学部医学科の神部宏幸さんが「先生方のご指導や地域の方々の温かな支えによって、恵まれた環境の中で学業に専念することができました。岐阜大学で得た知識や貴重な経験、授かった多くの人々との素晴らしい出会いを活かし、社会に大きく貢献できるよう今後とも精進してまいります」と力強く語りました。

さらに、在学期間中において、極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生18人が吉田学長から表彰されました。



学位記授与式の様子



謝辞を述べる医学部医学科 神部さん

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/3/26	岐阜	「社会に貢献」決意 岐阜大卒業式 ～ 医学部代表 神部宏幸さん ～
2024/3/26	中日	学部と大学院生1843人 苦境乗り越え巣立つ 岐阜大が学位授与 ～ 吉田和弘 学長、医学部代表 神部宏幸さん、大学院生代表 浅野珠里さん ～

研究



- ・多様な研究者と拓く「岐阜の未来プロジェクト」連携型共同研究助成授与式を開催
- ・地域新電力会社が提供する経済的・社会的価値を可視化
～ 最大で約7.3億円の金額価値を算出 ～
- ・犬悪性黒色腫症例に対する合成マイクロRNA-634を用いた新規治療法の開発
- ・重水素MRIを用いたがん治療効果の早期予測法を開発
- ・傷ついたDNAの修復機能において重要な「ポリ(ADP-リボース)」の部分構造の高効率な合成法が開発に成功
- ・世界初、2枚の画像だけで品質検査ができる汎用外観検査AIを開発
- ・SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)第3期において産業用熱利用分野におけるアンモニア利用の研究開発を開始



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

「多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」 連携型共同研究助成授与式を開催

【概要】

本学男女共同参画推進室では、令和5年5月9日（火）、「多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」2023（令和5）年度連携型共同研究助成授与式を行い、岐阜大学では4名の女性研究者の研究課題が採択されました。

「多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」（代表機関：岐阜大学、共同実施機関：岐阜薬科大学、岐阜女子大学、アピ株式会社、事業期間：2015～2020年度）の後継事業として2021年度にスタートさせたものです。このプロジェクトの一環として、女性研究者が共同実施機関等の研究者と連携しながら研究課題に取り組むことで研究力向上や地域創生をめざす「連携型共同研究助成」を前身事業を開始した2015年度より毎年実施しています。

授与式では、吉田学長から女性研究者4名に授与証書が手渡され、「研究代表者として、共同研究者とともに地域創生に向けて励んでください。」と挨拶があり、研究内容について懇談しました。

研究代表者は、研究力向上および地域創生をめざして共同研究者とともに研究課題に取り組みます。

◆ 2023（令和5）年度連携型共同研究助成採択者及び研究課題

- ・ 勝野 那嘉子（応用生物科学部 准教授）
ヨコバイ吸汁を用いた高品質損斐産和紅茶の創出
- ・ 岡田 彩加（応用生物科学部 助教）
休眠状態の食中毒菌カンピロバクターを培養できる培地の開発を目指した基礎的研究
- ・ クエンチャンクワン スコンティップ（医学系研究科 助教）
旋毛虫症における薬物治療の限界と宿主生体防御機構の連関の可能性
- ・ ヒグネット 真妃（教育推進・学生支援機構 特任准教授）
ローカル英語アンバサダーとしての大学生：地域の魅力を世界に伝える実践的言語学習



吉田学長、大藪副学長（男女共同参画推進室長）、
採択者の集合写真



学長と女性研究者との懇談

地域新電力会社が提供する経済的・社会的価値を可視化 ～ 最大で約7.3億円の金額価値を算出 ～

【概要】

国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学と、日本ガイシ株式会社は、地域新電力会社の恵那電力株式会社（恵那市）が再生可能エネルギーや大型蓄電池により地域に提供する経済的・社会的価値を可視化する共同研究を行い、最大で約7.3億円の金額価値があることを算出しました。

日本政府が掲げる2050年カーボンニュートラルの実現に向け、エネルギーの地産地消を促進し、地域の資金を地域内で循環できる取り組みとして、地方自治体では地域新電力事業への関心が高まっています。一方でこれまでは、事業の売上や利益以外で地域新電力の価値を示す指標がありませんでした。

共同研究は2022年4月から2023年3月まで、岐阜大学の高木朗義教授と日本ガイシで、日本ガイシなどが出資する恵那電力を対象に実施しました。恵那電力が設置した太陽光発電設備（PV）と電力貯蔵用NAS®電池を核とした電力システムについて、アンケート調査などを地域住民に実施し、恵那電力の地域新電力事業の環境貢献機能・災害時機能それぞれの側面の経済的・社会的価値についてコンジョイント分析により評価しました。（アンケート回答者：恵那市明智町住民・恵那市職員・恵那市内高校生 合計210人）

環境貢献機能と災害時機能を合わせた金額価値（便益）の合計は、恵那電力の想定事業期間の20年間で最大約7.3億円となりました。総金額価値を電力システムの構築などにかかる総費用で割った費用便益比は1.12～2.09で、投資に見合う効果が上げられるという結果となり、経済的・社会的効果の高さを示しました。

本共同研究に基づく価値の可視化手法を地域ごとに活用することで、事業の売上や利益以外で価値を示す指標がなかった地域新電力の提供価値を明らかにすることが可能となります。岐阜大学と日本ガイシは、共同研究結果から確立された本手法を地域新電力会社の事業運営支援に生かし、2050年カーボンニュートラル実現への寄与を目指します。



恵那市内に設置されている太陽光発電設備の一つ

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/5	日本経済	日本ガイシと岐阜大、共同研究により地域新電力会社が提供する経済的・社会的価値を可視化 ～ 社会システム経営学環 高木朗義 教授 ～
2023/6/6	中部経済	恵那電力、最大で7.3億円 日本ガイシと岐阜大 経済的価値を可視化

～研究に関連する取組～

地域新電力会社が提供する経済的・社会的価値を可視化
～ 最大で約7.3億円の金額価値を算出 ～

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/22	中部経済	地域新電力の設立、需給調整市場への参入 日本ガイシNAS電池の用途拡大へ
2023/6/23	岐阜	恵那電力の価値 金額換算7.3億円 ガイシと岐阜大が可視化
2023/6/25	毎日	恵那電力価値7億円 日本ガイシなど可視化

犬悪性黒色腫症例に対する 合成マイクロRNA-634を用いた新規治療法の開発

【概要】

東海国立大学機構 岐阜大学応用生物科学部 森 崇教授、同附属動物病院 吉川 竜太郎、東京医科歯科大学・難治疾患研究所 井上 純准教授（研究当時）と同・リサーチコアセンター長の 稲澤譲治特任教授らの研究グループは、ペット犬自然発症悪性黒色腫に対して、合成miR-634の腫瘍内局所投与は、抗腫瘍効果を示すことを明らかにしました。

犬の悪性黒色腫は難治性疾患であり、有効な治療法が確立されておられません。本成果は、合成miR-634を用いたマイクロRNA核酸抗がん薬は、犬及びヒト悪性黒色腫の新たな治療モダリティとなることが期待できます。

本研究成果は、日本時間2023年8月8日（火）にCancer Gene Therapy誌のオンライン版で発表されました。

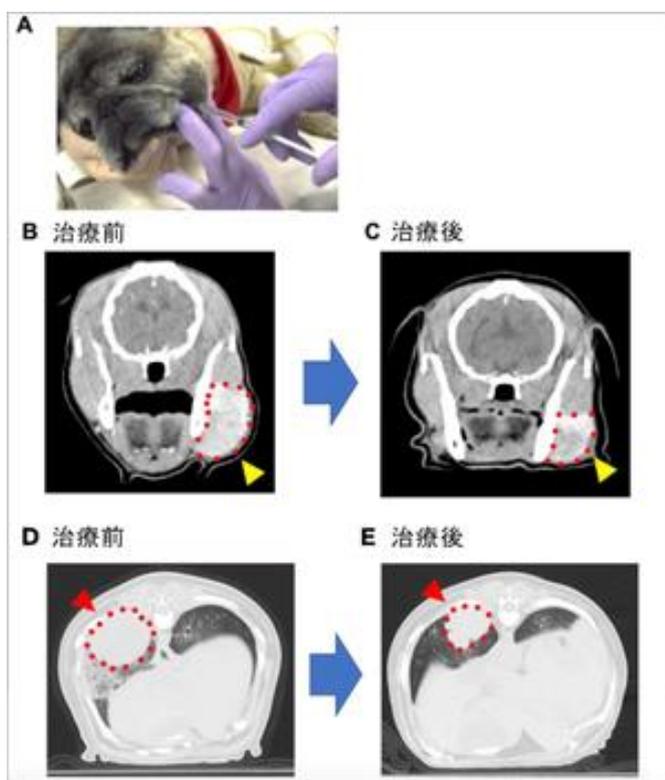


図 犬悪性黒色腫自然発症例におけるmiR-634の抗腫瘍効果

A. miR-634の腫瘍内局所投与の様子。口腔内原発病変を目視下で局所投与した。

B. miR-634投与前の口腔内腫瘍（黄色矢印）の造影CT画像。

C. miR-634投与開始582日後の同じ病変。

D. miR-634投与前の肺転移病変（赤矢印）の造影CT画像。

E. miR-634投与開始148日後の同じ病変。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/9/13	中日	犬のがんにも miR-634 効果あり 岐阜大など研究 メ ラノーマ治療に期待 ～ 森崇教授（共同獣医学科）、 吉川竜太郎（附属動物病院）他 ～

重水素MRIを用いたがん治療効果の早期予測法を開発

【概要】

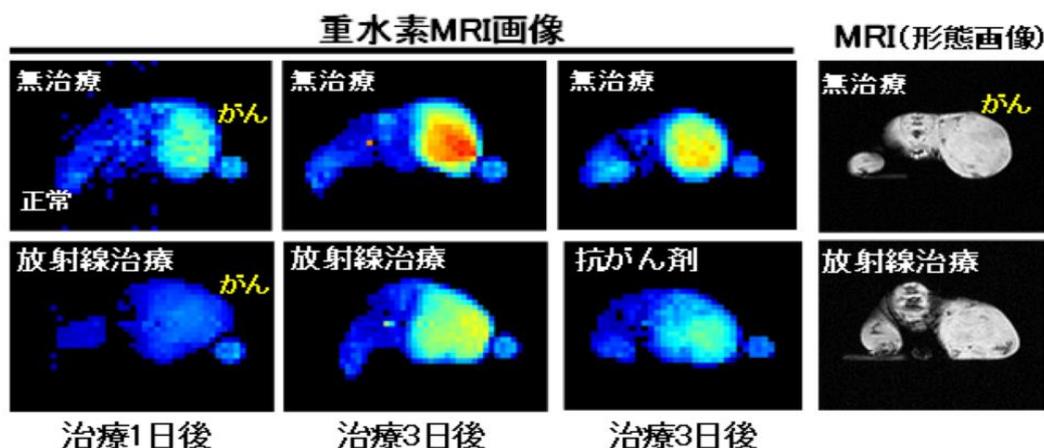
東海国立大学機構 岐阜大学高等研究院/One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点 (COMIT) 先端医療機器開発部門の兵藤文紀准教授 (JST創発研究者 水島パネル)、同大医学系研究科放射線医学分野の松尾政之教授、Abdelazim Elhelaly博士研究員、同大応用生物科学部共同獣医学科の森崇教授、岩崎遼太助教らのグループは、臨床で汎用されているMRI磁場 (1.5T) での重水素MRI法を開発し、膵(すい)がん移植マウスモデルにおいて、放射線治療や、抗がん剤治療効果を早期に検出できることを明らかにしました。本研究により、重水をMRIの造影剤として活用することで、がん治療効果の超早期診断への応用が期待できます。

放射線治療や抗がん剤を用いた化学療法後の治療効果は、CT (コンピュータ断層撮影) やMRI (磁気共鳴画像法) を用いた形態学的評価などを基に判別しています。しかしながら、がんの大きさは治療後数週間から数カ月間変化しない場合もあり、その判別には時間を要していました。また治療効果が得られない場合には、時間的な損失が大きいのがん治療の効果を早期に予測する方法が求められています。

本研究では、臨床で汎用されているMRIの磁場強度 (1.5T) を用いた重水素MRI法を確立し、水に近い性質を持つ重水を造影剤とすることで、膵がんモデルマウスでの重水の蓄積による変化の可視化に成功し、特にがん組織では、①重水が蓄積すること、②重水の蓄積が、放射線治療や抗がん剤による治療に対して早期かつ鋭敏に変化することを発見しました。これらの研究成果は、がんの大きさが変化する前に、治療効果を評価できる新たなイメージングバイオマーカーとして期待されます。

本研究は主に、日本学術振興会科学研究費補助金「小径膵癌の検出および超早期治療効果判定を可能とする重水素代謝MRI法の開発」(22K07768)、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) の創発的研究支援事業「電子伝達体をプローブとする多重超偏極イメージング法の創成」(JPMJFR2168)、文部科学省の光・量子飛躍フラッグシッププログラム (Q-LEAP) 「量子生命技術の創成と医学・生命科学の革新」(JPMXS0120330644) の支援を受けて行った研究です。

本研究成果は、the American Association for Cancer Researchの学術雑誌「Clinical Cancer Research」に掲載されました (2023年9月21日)。



膵がんモデルマウスの重水素イメージング。放射線治療、抗がん剤治療後、正常組織に比べがん組織では早期に画像強度が変化。一方、MRIで観察されるがんの大きさには変化がないことから形態に依存しない早期の治療効果判別法として期待される。

傷ついたDNAの修復機能において重要な「ポリ(ADP-リボース)」の部分構造の高効率な合成法の開発に成功 ～癌治療の一助へ～

【概要】

岐阜大学糖鎖生命コア研究所の田中 秀則 助教、安藤 弘宗 教授らの研究グループは、ポリ(ADP-リボース)¹⁾の部分構造の高効率な合成法の開発に成功しました。

ポリ(ADP-リボース)は、タンパク質に結合して存在する生体高分子であり、DNAが傷ついた時の修復機能において重要な役割を担っています。また、ポリ(ADP-リボース)を合成する酵素および分解する酵素を阻害すると、特定の癌を細胞死誘導できるため、癌治療への応用が報告されています。しかし、この細胞死誘導でポリ(ADP-リボース)が分子レベルでどのように働いているかは未だ明らかになっていません。これは、ポリ(ADP-リボース)が生体内に極微量しか存在せず、研究試料を大量に供給ができないためです。本研究は、この課題を解決するためにポリ(ADP-リボース)の部分構造の高効率な合成法を開発しました。この成果は、ポリ(ADP-リボース)の大量供給の実現に向けた重要なステップになります。

本研究成果は、2023年11月2日発刊の国際学術誌『European Journal of Organic Chemistry』のVery Important Paper（同雑誌掲載全論文の5%未満）として掲載されました。また、研究内容のイラストが同誌の表紙に採用されました。

1) **ポリ(ADP-リボース)**：ADPリボースを単量体として、ADPリボース同士が1,2-cisグリコシド結合を介して繋がってできる鎖状の生体高分子。



複数ある合成法（ルート）から適切なものを選び、化合物（駒）が化学反応（升目）を経て、目的生成物（ゴール）にたどり着くイメージを双六で表現したイラスト

世界初、2枚の画像だけで品質検査ができる 汎用外観検査AIを開発

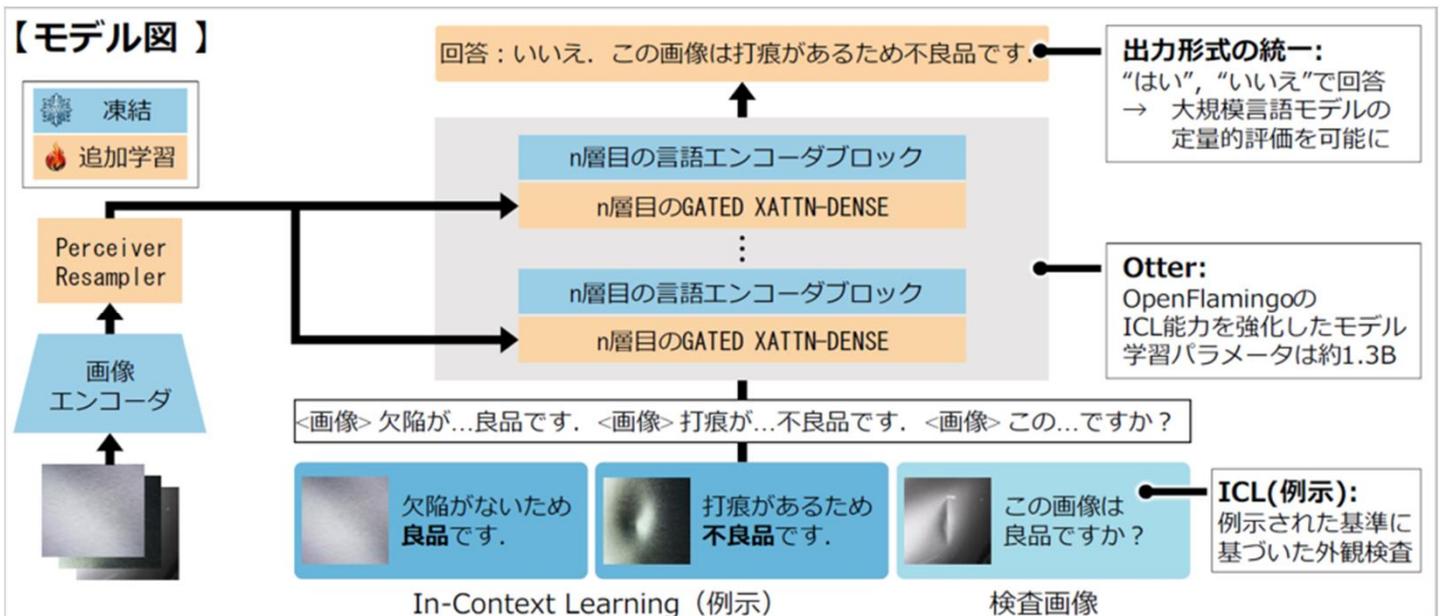
- 大規模Vision and Languageモデルを用いた汎用外観検査モデル -

【概要】

岐阜大学工学部加藤邦人教授のチームは、大規模視覚言語AIを基に、少ないデータから高度な判定を行う汎用外観検査AIを開発しました。このAIは、異なる種類の製品に対しても一つのAIで検査を行うことが可能です。本研究では、従来よりも大幅に導入コスト、導入時間を削減できるという特長を持っています。

本研究成果は、日本時間2023年12月8日に外観検査の自動化ワークショップVIEW2023で発表され、小田原賞（優秀論文賞）を受賞しました。

【モデル図】



【用語解説】

- 1) 大規模 Vision and Language モデル：
大規模言語モデル（自然言語認識）と画像認識モデルを持った AI。
- 2) In-Context Learning (ICL):
少数の例から学習を行い、未知のデータに対して推論を行う手法。

【論文情報】

雑誌名：ビジョン技術の実利用ワークショップ ViEW2023

論文タイトル：大規模視覚言語モデルの In-Context Learning による少量データからの外観検査

著者：山田 悠正, 尾下 拓未, 中塚 俊介, 加藤 邦人, 上野 詩翔 (岐阜大), 相澤 宏旭 (広島大), 林 良和 (岐阜大)

SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)第3期において産業用熱利用分野におけるアンモニア利用の研究開発を開始

【概要】

東海国立大学機構 岐阜大学（学長：吉田 和弘、以下「岐阜大学」）、東京ガス株式会社（社長：笹山 晋一、以下「東京ガス」）、三浦工業株式会社（代表取締役：宮内 大介、以下「三浦工業」）は、このたび、産業用熱利用分野におけるアンモニア利用の研究開発（以下「本研究開発」）を開始しました。

本研究開発は、総合科学技術・イノベーション会議*1（CSTI）による戦略的イノベーション創造プログラム*2（以下「SIP」）第3期課題「スマートエネジーマネジメントシステムの構築」の研究開発テーマ「アンモニア・水素利用分散型エネルギーシステム」において実施し、早期に社会実装可能な脱炭素エネルギーおよび水素キャリアとして期待されているアンモニアを燃料とした工業炉および貫流ボイラの開発に取り組みます。

燃料としてのアンモニアは、燃焼時にCO₂を発生せず、輸送・貯蔵においても優位性がある一方、可燃範囲が狭く、燃焼速度が遅いといった特性に伴う燃焼の困難さと、燃焼時に生成されるNO_x（窒素酸化物）の抑制が産業分野での導入時の技術障壁となります。本研究開発では、アンモニアの改質によって生成されるアンモニア・水素・窒素混合ガスを燃料として用いることで、技術障壁の解消に取り組みます。今後、経済性、環境性の側面から最適な燃焼方法を2025年度までに確立し、2027年度までに工業炉および貫流ボイラの実証機を開発することを目指します。

また、岐阜大学、三菱化工機株式会社、株式会社レゾナックが研究開発に取り組む燃焼器用改質器ユニットと連携し、最適なトータルシステムの構築に取り組みます。



本研究開発範囲のイメージ

【用語解説】

※1 CSTI：内閣総理大臣、科学技術政策担当大臣のリーダーシップの下、各省より一段高い立場から、総合的・基本的な科学技術・イノベーション政策の企画立案及び総合調整を行うことを目的とした「重要政策に関する会議」の一つ。

※2 SIP：CSTIが、Society5.0の実現に向けてバックキャストにより、社会的課題の解決や日本経済・産業競争力にとって重要な課題を設定し、基礎研究から社会実装までを見据えて研究開発を一気通貫で推進し、府省連携による分野横断的な研究開発、及びその成果の社会実装に産学官連携で取り組むことを目的として推進するプログラム。

国際化



- ・ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問
- ・日本語・日本文化教育センター 郡上踊りワークショップを開催
- ・在岐阜リトアニア共和国名誉領事及び駐日リトアニア共和国大使にリトアニア共和国との交流状況を報告
- ・在マレーシア国民大学副学長等が本学を訪問
- ・マリアノ・マルコス州立大学学長等が本学を訪問
- ・リール大学副学長等が本学を訪問
- ・社会システム経営学環及びグローバル推進機構の教員がフエ大学を訪問
- ・岐阜大学ペタンク体験&大学対抗ペタンク大会を開催
- ・国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか—ChatGPT時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？—」を開催
- ・ノーザンケンタッキー大学国際教育センター事務局長が本学を表敬訪問
- ・岐阜大学大学院連合農学研究科が「IC-GU12 Roundtable 2023」等を開催
- ・ヴィータウタス・マグヌス大学農業アカデミー学部長らが本学を訪問



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が 本学を訪問

【概要】

2023年5月2日（火）、ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使が本学を訪問しました。

この訪問は本学と駐日モロッコ王国特命全権大使双方の要望のもと、岐阜県の協力により実現したものです。

ラシャッド・ブフラル大使は、吉田和弘学長、杉山誠副学長、神原信志副学長及び小山博之グローバル推進機構長と意見交換の後、学内の航空宇宙生産技術開発センター及び糖鎖生命コア研究所を見学されました。

意見交換においては、本学の概要紹介の後、モロッコの自然・エネルギー・産業・大学教育等の話題に触れながら、モロッコの大学と本学との今後の交流の可能性について話し合われました。

今回の訪問を機に、同国の大学との学生・研究者交流が開始されることが期待されます。



ラシャッド・ブフラル駐日モロッコ王国特命全権大使（右）と吉田学長



集合写真



施設見学（航空宇宙生産技術開発センター）



施設見学（糖鎖生命コア研究所）

日本語・日本文化教育センター 郡上踊りワークショップを開催

【概要】

本学日本語・日本文化教育センター（日文センター）は、2023年5月17日（水）、日文センター和室において、昨年11月にユネスコ無形文化遺産に認定された、国重要無形民俗文化財の「郡上踊り」を学ぶワークショップを開催しました。当日は約20人の留学生が参加しました。このワークショップは、2012年から2019年まで毎年開催し、コロナ禍では中断を余儀なくされていましたが、4年ぶりに開催することができました。

ワークショップが始まる前に、美濃市の国際交流支援グループ「せびあ会」の方々に浴衣を着付けしてもらいました。インドネシア、ガーナ、韓国、タイ、中国、フランス、ベトナム、ベルギーの留学生たちは、色とりどりの浴衣を前に、どれを着ようか嬉しそうに迷っていました。

ワークショップには、郡上踊り保存会囃子部・同 口明方くちみょうがた囃子部の遠藤光生氏、熊澤里重氏を講師としてお招きしました。最初に郡上市や郡上踊りの概要についての説明があり、その後、郡上踊りの中で代表的な曲「かわさき」と「春駒」の2曲の踊りを習いました。

ほとんどの留学生は初めて郡上踊りを体験しましたが、1時間半のワークショップを通して講師も感心するほど上達しました。同じ側の手足を動かす独特の動作に苦戦する留学生もいましたが、「上手下手ではない、笑顔で楽しく踊ることが一番大切」という講師の言葉に励まされて、それぞれがのびのび踊ることができました。最後には、楽しくそして真剣に踊った留学生10名が講師によって選ばれ、岐阜ゆかりの賞品が手渡されました。留学生にとって、日本や岐阜の文化を感じる貴重な機会となりました。



「かわさき」ポーズで集合写真



「春駒」を踊る留学生たち

在岐阜リトアニア共和国名誉領事及び駐日リトアニア共和国大使にリトアニア共和国との交流状況を報告

【概要】

2023年5月31日（水）及び6月2日（金）に、リトアニア共和国との交流状況を報告するため、神原信志岐阜大学副学長（国際担当）及び毛利哲也教授（工学部）が、村瀬幸雄 在岐阜リトアニア共和国名誉領事及びAurelijus Zykas特命全権大使とそれぞれ面談しました。

本学は同国のヴィータウタス・マグヌス大学（以下、VMU）及びカウナス工科大学（以下、KTU）と大学間学術交流協定を締結し、学生及び教員の交流を行うとともに、同国について理解を深め、両国の交流の架け橋となる人材を育成することを目的に、「リトアニア学」を全学共通科目として開講するほか、このコロナ禍においても、現地の学生とオンラインで交流するイベントを実施する等、国際交流活動に取り組んでいます。

このたびの面談では、同国との交流状況を報告するほか、本年3月に本学の教員7名がVMU及びKTUを訪問し、VMUとジョイント・ディグリープログラムの設置に向けた意見交換を行ったこと、KTUと今後の交流推進に向けた意見交換を行ったことを報告しました。村瀬名誉領事からは経済界との連携についても触れられ、また、Aurelijus Zykas特命全権大使とは今後のリトアニアとの更なる交流について意見交換をしました。

本学は、岐阜県出身の元外交官杉原千畝氏の功績を縁に岐阜県が親交を結ぶ同国と、一層友好な関係を構築し交流活動を推進していきます。



村瀬名誉領事との面談の様子



左からAurelijus Zykas駐日リトアニア共和国特命全権大使、神原信志岐阜大学副学長、毛利哲也教授

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/1	岐阜	リトアニアの大学と農学分野連携 岐阜大，共同学位準備 ～ 神原信志 副学長，工学部 毛利哲也 教授 ～
2023/6/2	中部経済	リトアニアとの交流 村瀬名誉領事に報告 岐阜大学 ～ 神原信志 副学長，工学部 毛利哲也 教授 ～

～国際化に関連する取組～

在岐阜リトアニア共和国名誉領事及び駐日リトアニア共和国大使に
リトアニア共和国との交流状況を報告

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2023/6/1	チャンネルCCN エリア トピックス715	【岐阜市】岐阜大学教授がリトアニア共和国名誉 領事と面談 神原信志 副学長, 工学部 毛利哲也 教授

在マレーシア国民大学副学長等が本学を訪問

【概要】

2023年6月14日(水)、マレーシア国民大学（UKM）からモハマド カシム副学長（学術・国際担当）、イサク アーマド理工学部長、カイルル アンノアール マスト教養学部長及びヌル ハイカル ローウィンス アブドゥラ国際センター上席役員が本学を訪問しました。本学は、UKMと2016年9月に大学間学術交流協定を締結し、学生・研究者交流を行っております。

モハマド カシム副学長等は、神原信志副学長(国際・情報・評価(副)担当)、小山博之グローバル推進機構長、沓水祥一工学部教授及びリムリーワ工学部教授と、本学とUKMとの交流について意見交換を行いました。その後、地域科学部においても学部長、副学部長および関係教員と意見交換を行いました。意見交換においては、UKMと実施する博士課程のジョイント・ディグリープログラムをはじめとする各種事業について、これまでの交流状況、また今後のさらなる展望などについて活発に議論が行われました。

今回の訪問を機に、新たなプログラムの開始も含めた同大学との更なる交流が期待されます。



集合写真

マリアノ・マルコス州立大学学長等が本学を訪問

【概要】

2023年7月20日(木)に、本学と大学間学術交流協定を締結しているマリアノ・マルコス州立大学（MMSU）から、シャーリー アグルーピス学長、ミージェイ ドミンゴ 国際担当部長、マルロ アキーノ企画部長、アリス レイノルド カヒガル教育学部長、ロメリン ラグラ氏（初等教育学科教員）、フィリスティア メルキュルーリア バガーヤス附属学校長、リアン ジェイマル ラミル氏（薬学部教員・プロジェクトリーダー）及びチェスカ アルラ アグルーピス学長補佐が本学を訪問しました。

本学は、MMSUと2018年9月に大学間学術交流協定を締結し、学生・研究者交流を行っております。

シャーリー アグルーピス学長等は、本学の吉田和弘学長、神原信志副学長(国際・情報・評価(副)担当)、小山博之グローバル推進機構長及び平松連合農学研究科長と、MMSUと本学との交流状況や今後の展望などについて意見交換を行いました。その後、大学間学術交流協定を更新するための署名式を行いました。

また、大学院連合農学研究科と大学院連合創薬研究科において、研究室・施設見学や、研究科長及び関係教員との意見交換会が行われました。

今回の訪問を機に、複数研究分野において MMSUとの交流促進が期待されます。



集合写真

リール大学副学長等が本学を訪問

【概要】

2023年9月8日(金)に、本学と大学間学術交流協定を締結しているフランスのリール大学 (ULille) から、ニルトゥールズ副学長、ディディエゴセ学長補佐 (国際担当)、ヤンゲラルデル氏 (東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所 (iGCORE) 特任教授、構造機能糖鎖生物学研究部門ディレクター)、内村健治氏 (フランス国立科学研究センターリサーチディレクター)、ソフィーグールドゥグルト氏、ジョンイヴデュロ氏 (ポリテックリール)、また、在日フランス大使館より、ベネディクトギルマンプロジェクトマネージャー、ジャンバティストボード専門職員 (科学技術部) が本学を訪問しました。

本学は、ULilleと2020年4月に大学間学術交流協定を締結し、学生・研究者交流を行っております。

ニルトゥールズ副学長等は、本学の吉田和弘学長、神原信志副学長 (国際・情報・評価 (副) 担当)、小山博之グローバル推進機構長、平松連合農学研究科長、芝原工学部准教授と、ULilleと本学との交流における今後の展望について話し合いました。とくに、将来的なジョイント・ディグリープログラムの実施を目指した博士学生を共同で指導するシステム等について、活発な意見交換が行われました。その後、iGCOREにおいて、ランチミーティング及び研究室・施設見学が行われました。

今回の訪問を機に、本学はULilleとの連携をより一層深め、今後の研究交流を促進するなどさらなる国際化に向けた取り組みを推進していきます。



集合写真



ランチミーティング

社会システム経営学環及びグローバル推進機構の教員が フエ大学を訪問

【概要】

2023年9月19日（火）と22日（金）に社会システム経営学環の森部 絢嗣 准教授、奥岡 桂次郎 准教授とグローバル推進機構の松井 真弓 助教が本学の大学間学術交流協定校であるフエ大学を訪問しました。

岐阜県とベトナムトゥアティエン＝フエ県は、2016年11月に友好提携を締結して以降、様々な分野で交流を行っています。これに伴い、フエ大学と岐阜大学は、2018年に学術交流協定を締結しました。

9月19日（火）には、同大学観光学部のTran Huu Tuan学部長、Tran Thi Ngoc Lien副学部長、Nguyen Duc Cuong副学部長、Phan Van Ngoc氏、Le Minh Tuan氏を訪問しました。面談では、本学の全学共通教育科目グローバルリーダー実践II及び社会システム経営学環の観光デザイン実習への協力に感謝を述べるとともに、2023年の後期授業から開始する本学学生と同大学観光学部学生がオンライン交流を行ったうえで、2024年3月にフエ市で10日間の観光実習を行うプログラムについて意見交換しました。

初年度となる今回のプログラムを機に、様々な分野での学生・研究者交流の広がりが期待されます。



Tran Huu Tuanフエ大学観光学部長と森部准教授



Tran Huu Tuanフエ大学観光学部長と松井助教



集合写真

岐阜大学ペタンク体験 & 大学対抗ペタンク大会を開催

【概要】

令和5年10月14日（土）に岐阜大学ペタンク体験 & 大学対抗ペタンク大会を岐阜大学構内グラウンド（テニスコート西側）で開催しました。

岐阜大学では10月の1ヶ月間を「国際月間」と位置づけており、その取り組みの一つとして開催したものです。ペタンクはレクリエーションとしても競技としても楽しめる南フランス発祥のスポーツです。

午前中には岐阜大学生の未経験者に向けてペタンク体験が行われ、地域科学部のフランス人教員 ジル・ゲラン准教授の指導のもと、岐阜大学ペタンクサークルの学生やフランス・リール大学からの留学生らとともにペタンクを楽しみました。

午後からは岐阜大学ペタンクサークルが岐阜県ペタンク協会後援のもと大学対抗ペタンク大会を本学で初めて開催し、以下の岐阜県、愛知県、京都府の大学から参加した20チーム、計56名が白熱した試合を繰り広げました。

岐阜大学はこれからも多様な文化に触れる機会を提供していきます。



岐阜大学ペタンク体験の様子



ゲラン先生とフランス・リール大学留学生の皆さん



岐阜大学ペタンクサークルによる大学対抗ペタンク大会開会のあいさつの様子

国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか—ChatGPT時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？—」を開催

【概要】

2023年10月31日（火）に、脳科学者の茂木健一郎氏、経営者の塩野誠氏、吉田和弘学長による国際月間特別シンポジウム「グローバル化は我々をどこに導くのか—ChatGPT時代を生き残れ！ 国際化に必要な能力は本当に英語なのか？—」を開催しました。会場となった本学講堂では学内外から約280名が、Glocal Lesson*1でのリアルタイム配信では約100名が、約1時間半の鼎談を聴講しました。

本鼎談は、司会のグローバル推進機構松井真弓助教が学生から受けた相談「留学は就職に有利になるの？」から始まり、英語翻訳に生成AIが利用できる時代に、なぜ英語を学ぶのか、留学するのかについて話し合いました。

塩野氏が、英語が公用語ではないフィンランドでの自身の事業実績を例に、「英語でビジネスが完結できることはグローバル社会において前提である」と世界の共通語として英語が使用されている事を解説すると、茂木氏は「世界的な企業のトップは、訛りのある英語を話す」と言い、「きれいな英語」を話すことが重要ではないことを強調しました。

また、本学がインド工科大学グワハティ校やマレーシア国民大学と実施するジョイント・ディグリープログラムを吉田学長が紹介した際には、茂木氏は「多様性の国に行き、世界のトップを生む大学で学ぶことは素晴らしい経験になる」と語り、塩野氏は「エントリーシートにそうしたプログラムを修了した記載があると雇用する側としては会ってみたいと感じるし、実際に会うと他の学生との違いを感じる」と話しました。また驚異的なスピードで発展を続ける生成AIに関しても言及があり、「AIを考えることは人間を考えることである」と塩野氏が述べると、茂木氏が「もっと知識に貪欲になれ！」と立ち上がって聴衆を鼓舞する場面もあり、終始、熱い議論が交わされました。

鼎談の最後には、3者が「これからの国際社会で働くときに役立つスキル」について各自の考えを述べ、学生らにエールを送りました。Glocal Lessonでは、この鼎談の様様をオンデマンド配信しています。



鼎談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/1	中日	AI時代に必要な能力議論 岐阜大 学長と脳科学者・茂木さんら ～ 吉田和弘 学長 ～

ノーザンケンタッキー大学国際教育センター 事務局長が本学を表敬訪問

【概要】

2023年10月30日(月)に、ノーザンケンタッキー大学（NKU）国際教育センター フランソワ ルファ事務局長が本学を訪問しました。

本学とNKUは、1990年10月に大学間学術交流協定を締結し、学生及び教職員の交流を行っております。

ルファ事務局長は、吉田和弘学長を表敬訪問し、神原信志副学長(国際・情報・評価(副担当)、グローバル推進機構 小山博之機構長、嶋陸宏副機構長、NKUリエゾン（連絡調整者）の教育学部 巽徹教授及び学務部 野々村部長と懇談しました。懇談では、これまでの学生交流の成果や、今後予定される交流プログラム、岐阜・東海地域とNKUの位置するグレーター・シンシナティエリアとの共通点を踏まえた様々な連携の可能性等について話し合いました。

また、ルファ事務局長は、学長他とのランチミーティング、国際担当教員との打ち合わせ、教育学部での学生・留学生との交流及び航空宇宙生産技術開発センターの視察を行いました。

今回の訪問を機に、同大学との更なる交流促進が期待されます。



懇談での記念撮影。左から野々村部長、小山機構長、神原副学長、フランソワ事務局長、吉田学長、嶋副機構長、巽教授



教育学部での学生との交流

岐阜大学大学院連合農学研究科が 「IC-GU12 Roundtable 2023」等を開催

【概要】

岐阜大学大学院連合農学研究科（博士課程）は、11月8日（水）に、南部アジア農学系博士課程教育連携コンソーシアム加盟校（日本を含む南部アジア地域9カ国20大学）（以下、IC-GU12という）による「IC-GU12 Roundtable Meeting 2023」（農学系博士教育国際連携円卓会議：ラウンドテーブル）を含む3つのイベントを開催しました。

ラウンドテーブルでは、リエゾン教員等29名（対面16名、オンライン13名）が出席し、キングモンクット工科大学ラカバン校の新規加盟や、加盟校とのダブルディグリープログラムの今後の方向性に関する議論などが行われました。

次に、「IC-GU12 Joint Lecture Series 2023」では、ポストハーベスト工学をテーマに、Chairat Techavuthiporn准教授（タイ・キングモンクット工科大学ラカバン校）、Pongphen Jitareerat准教授（タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校）、Khandra Fahmy准教授（インドネシア・アンダラス大学）、馬剛助教（静岡大学）が講義を行い、IC-GU12の学生を中心に対面で42名・オンラインで27名が聴講しました。

最後に、本学流域水環境リーダー育成プログラムとの共催で行った「UGSAS-GU & BWEL Joint Poster Session on Agricultural and Basin Water Environmental Sciences 2023」では、学生19名によるポスターセッションを開催し、最優秀発表2名、優秀発表3名の表彰を行いました。

ラウンドテーブルでは、コンソーシアムの今後の展望に関する貴重な意見が得られ、Joint Lectureでは熱心に質問する学生の姿が見られました。また、ポスターセッション受賞者から「コロナ禍では難しかった対面での意見交換を行うことができてよかった」「苦楽をともにしている仲間みんなのおかげで賞を取ることができた」と喜びのコメントが寄せられるなど、全体を通して有意義な一日となりました。

今後も、コンソーシアム加盟校との協力を深め、新たなプロジェクトや共同研究の展開を見据えた国際的な研究交流を促進していきます。



ラウンドテーブルの様子



Joint LectureでのPongphen Jitareerat准教授（キングモンクット工科大学トンブリ校）による講演の様子

ヴィータウタス・マグヌス大学農業アカデミー 学部長らが本学を訪問

【概要】

令和6年3月5日（火）に、リトアニアのヴィータウタス・マグヌス大学（VMU）農業アカデミーより、アストリッド・ミセイキエン学部長及びバージニア・カージャイトバイオエコノミー研究所国際担当副所長が本学を訪問しました。

本学は、VMUと2012年1月に大学間学術交流協定を締結し、学生及び教職員の交流を行っております。2022年度には、神原 信志副学長（国際・情報・評価(副)担当)ほか教員7名が同大学を訪問し、主に博士課程での協働教育プログラム開設の可能性について意見交換を行いました。今回、ミセイキエン学部長らは、神原副学長、平松研連合農学研究科長、毛利哲也工学部教授、八代田真人応用生物科学部教授と懇談し、VMU農業アカデミーの研究領域や産業界との連携等について紹介の後、本学の連合農学研究科と協働教育プログラムを開始する場合の展望や課題点等について協議しました。

その後、矢部富雄応用生物科学部教授も加わり、新たに開設されたTokai Open Innovation Complex岐阜サイトでのランチミーティング及び応用生物科学部での研究室見学が行われました。

今回の訪問を機に、同大学との新たな教育プログラム設置や、更なる学生・教職員の交流が期待されます。



懇談での記念撮影。左から毛利教授、平松研究科長、神原副学長、ミセイキエン学部長、カージャイト副所長、八代田教授



研究室見学の様子

社会貢献



- ・ 本学教育学部保健体育講座 春日研究室が「Sport in Life 2022賞」を受賞
- ・ 地域ラボ・高山オープニングセレモニーを開催
- ・ 地域ラボ・中津川及び地域ラボ・岐阜のオープニングセレモニーを開催
- ・ 「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」大学見学会を開催
- ・ FC岐阜主催イベント「脱炭素社会を考える日」に展示ブースを出展
- ・ 安八町と連携に関する協定を締結
- ・ SPARC-GIFU地域連携プラットフォームを結成
- ・ 愛知銀行および中京銀行と「産学連携活動の協力に関する協定」を締結
- ・ 垂井町と連携に関する協定を締結
- ・ 神戸町と連携に関する協定を締結
- ・ 池田町と連携に関する協定を締結
- ・ 「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、学生が揖斐川町に住み始めます
- ・ 第1回SPARC-GIFUシンポジウムを開催
- ・ 白川町と連携に関する協定を締結
- ・ 川辺町と連携に関する協定を締結

本学教育学部保健体育講座 春日研究室が 「Sport in Life 2022賞」を受賞

【概要】

2023年3月7日（火）に、スポーツ庁が主催する「第2回Sport in Lifeアワード受賞団体表彰式」において、本学教育学部保健体育講座 春日研究室（春日晃章 教授）が「Sport in Life 2022賞」を受賞しました。

第2回「Sport in Lifeアワード」とは、スポーツ庁が主催して、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現のため、「Sport in Lifeプロジェクト」として、スポーツ人口拡大への貢献に資する優れた取り組みを表彰するものです。このたびの受賞では、春日教授と岐阜県スポーツ協会が中心となって推進する「つよいぞ！ぎふっ子」プロジェクトなどの活動が優れた取り組みとして高く評価されました。本プロジェクトでは、コロナ禍による子どもたちの運動不足解消を目的として、県内各地の小学校や幼稚園を訪問しながら、子どもたちが楽しく日常的に運動を行う習慣を定着化させるための「運動遊び」を教える活動をしています。

4月11日（火）には、春日教授と春日研究室に所属する学生5人が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。春日教授は「運動の好き嫌いに関わらず運動が楽しいと子どもたちに感じてもらい、それが習慣化されるよう工夫して活動している。また、体育の授業が苦手な子どもでも楽しめるようこの取り組みを学校の先生たちにも活用してほしい」と話しました。吉田学長からは、「小学校における教育は日本の未来にとって大きな役割を担っておりこのような活動は大変素晴らしい。社会のニーズに対応するため高齢者に向けた活動も発展させていってほしい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/4/12	中日	運動不足解消 活動で表彰 岐阜大・春日教授 スポーツ庁から ～ 教育学部 春日晃章 教授 ～

～社会連携に関連する取組～

本学教育学部保健体育講座 春日研究室が「Sport in Life 2022賞」を受賞

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2023/5/5	CBCテレビ 「チャント！」 15:49～	近年の子どもの体力低下について、対策などコメント 教育学部 春日晃章 教授
2023/5/10	NHK総合 「ニュース7」 17:00～17:30	コロナの影響で全国的に子どものロコモティブシンドローム（運動器障害）が問題になる中、春日教授が各地の小学校で予防策として取り組んでいる、オリジナルのリズムダンスや運動遊びなどの取り組みを紹介 教育学部 春日晃章 教授

地域ラボ・高山オープニングセレモニーを開催

【概要】

令和5年4月16日（日）に、地域ラボ・高山（高山市下二之町6（高山市若者等活動事務所「村半」内）で地域ラボ・高山のオープニングセレモニーを開催しました。

地域ラボは地域活性化人材育成事業（SPARC）「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」の目的である地域社会の課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業、地域社会での共生ができる人材育成に取り組むための拠点となるものです。

セレモニーでは、高山市長をはじめ地元の方々、SPARC-Gifuとして大学間連携を組む中部学院大学長、岐阜市立女子短期大学長にもご参加いただき、SPARCの概要説明、地域ラボ・高山の取り組み説明の後、看板除幕を行いました。

地域ラボ・高山では、現地実習の拠点になると共に、中・高校生向けセミナーや社会人向けリスキリング教育を実施することで、古くからの伝統産業や観光資源による地域活性化、人口減少などの課題に対して、地元の皆様と一緒に取り組んでいきます。



看板除幕の様子



地域ラボ・高山が設置された村半

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/4/15	岐阜	「地域ラボ」の役割議論 岐阜大、県内に今月3カ所開設 学生や社会人ら座談会 ～ 社会システム経営学環運営「地域ラボ」～
2023/4/18	日本経済	岐阜大、地域振興へ拠点 3大学共同、自治体と連携強化 課題解決、実習の場に ～ 吉田和弘 学長、杉山誠 副学長 ～
2023/4/19	岐阜	高山市で「地域ラボ」開設 岐阜大など連携 人材育成の拠点に ～ 社会システム経営学環運営「地域ラボ」～

地域ラボ・中津川及び地域ラボ・岐阜の オープニングセレモニーを開催

【概要】

令和5年4月29日（土）に地域ラボ・中津川（中津川市新町1番15号）で、4月30日（日）には地域ラボ・岐阜（岐阜市神田町6丁目11-1協和第2ビル（カンダまちおこし株式会社内））でオープニングセレモニーを開催しました。

地域ラボは地域活性化人材育成事業（SPARC）「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」の目的である地域社会の課題解決につながる活躍や新規事業の創業・起業、地域社会での共生ができる人材育成に取り組むための拠点となるものです。

オープニングセレモニーでは、市長をはじめ地元の方々、大学間連携を組む江馬中部学院大学長、畑中岐阜市立女子短期大学長にもご参加いただき、取り組み説明、看板除幕などを行いました。

青山中津川市長からは、若者の可能性を生かした次世代に向けた取り組みになること、柴橋岐阜市長からは、学生が大学から外に出て、自治体や企業と一緒に地域の課題に取り組む拠点になることへの期待が寄せられました。

地域ラボでは、地域課題、地域振興に貢献できる取り組みを展開していく予定です。



4月29日（土）
地域ラボ・中津川 看板除幕の様子



4月30日（日）
地域ラボ・岐阜 看板除幕の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/5/2	中日	地域の人材育成拠点に 岐阜大が「地域ラボ・岐阜」開設 ～ 後藤尚久 教授 ～
2023/5/9	岐阜	中津川で地域課題解決 岐阜大が「ラボ」開設 ～ 土本新一 特任教授、吉田和弘 学長 ～

「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」 大学見学会を開催

【概要】

令和5年6月15日（木）に、本学男女共同参画推進室は「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」の取組の一環として大学見学会を開催しました。

「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」（令和5年度）の採択を受けて実施されるものです。本プロジェクトでは、研究におけるダイバーシティの確保やジェンダード・イノベーション創出に向けて、岐阜県内の女子中高生、保護者、教員等を対象に理系の魅力を伝え、女性研究者のキャリアパスやロールモデルの提示を推進し、理系進路選択を応援するための各種取組（出前授業、企業見学・交流会、研究施設見学会、講演会など）を予定しています。

今年度の大学見学会では、岐阜市教育委員会の探究学習事業「ぎふMIRAI's」と連携し、岐阜市立長良中学校2年生101名の参加がありました。

大学構内見学の後、大藪千穂副学長（男女共同参画推進室長）から本学の学部やキャンパスライフ、卒業後の進路等についての説明がありました。続いて、理系分野の学部生、大学院生5名がリレートークを行い、「苦手」よりも「好き」を重視した進路選択の経験や大学生活での様々な出会い、将来のキャリアプラン等について熱く語りました。

後半は、学内施設である地域連携スマート金型技術研究センターおよび附属図書館を見学しました。地域連携スマート金型技術研究センターでは、金型のプレス実験を見学し、AIを活用した最新の金属加工技術について大学教員が分かりやすく説明しました。附属図書館では、膨大な蔵書を誇る書架のほか、動物の剥製や骨格標本を多数展示する附属図書館のアーカイブ・コアを見学しました。

参加者アンケートでは、生徒から「在学生の話を通じて様々な進路の選び方があることがわかった」「理系のなかにも多くの専門分野があることを知った」「理系科目に対する興味が高まった」など、理系分野への興味・関心の高まりを強く感じさせる感想が数多く寄せられました。また、同行した中学校教員からは、「生徒たちにとって未知の世界を知る貴重な機会となった」「将来の進路選択に役立つ体験になった」といった声が届くなど、学びや進路、仕事について生徒と教員がともに理解を深める貴重な機会となったようです。

「ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト」では、岐阜県内の女子中高生や保護者、教員に向けて様々な取組を企画しています。取組の詳細についてはプロジェクト事務局（habataki@t.gifu-u.ac.jp）までお問合せください。



在学生によるリレートーク



地域連携スマート金型技術研究センターの見学

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/24	中日	女子の理系進学応援 岐阜大が中高生ら対象プロジェクト ～ ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクト ～
2023/6/24	日本経済	岐阜大、在学生在が魅力発信 女性の理工系進学、東海でも後押し 研究・就活説明、学内も案内 ～ 男女共同参画推進室長 大藪千穂 副学長 ～

FC岐阜主催イベント「脱炭素社会を考える日」に 展示ブースを出展

【概要】

岐阜大学地域協学センターと脱炭素・環境エネルギー研究連携支援センター（脱炭素センター）は、令和5年7月15日（土）に長良川競技場・芝生広場にて開催された株式会社岐阜フットボールクラブ（FC岐阜）主催イベント「脱炭素社会を考える日」に出展しました。

本イベントは昨年に引き続き2回目の開催で、FC岐阜のホームゲーム観戦来場者に対して、本学が実施する脱炭素に関する教育・研究・社会貢献の取り組みを知っていただくことを目的にブース出展しています。展示ブースでは、地域協学センター、脱炭素センター、環境対策室等の紹介パネルを展示したほか、マイうちわの作成体験コーナーを設け、来場者に「手作りうちわと冷房器具を組み合わせ、暑い夏を省エネで過ごしましょう。」と呼びかけました。

当日はサッカー観戦に6,400人のサポーターが訪れ、展示会場も賑わいました。本学の展示ブースで実施したマイうちわの作成体験には20人ほどの親子連れが来場しました。会場には本学以外にも県内企業や自治体併せて10団体がそれぞれ出展し、脱炭素社会づくりに関する普及・啓発活動を行いました。

本学とFC岐阜は、2017年に連携協定を締結しており、今回の出展は本協定に基づいて実施されたものです。本学は、今後もFC岐阜と協働して、持続可能な脱炭素社会づくりに貢献するための活動を展開してまいります。



岐阜大学地域協学センター出展ブースの様子

安八町と連携に関する協定を締結

【概要】

本学と安八町は、令和5年10月31日（火）に連携に関する協定を締結しました。

本学と安八町は、これまでも大学教員が防災講話を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と安八町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは33件目です。

協定締結式では、岡田立安八町長から、「岐阜大学と連携を密にし、広範囲の知見や学生の発案から、営農者不足や交流人口の増加、公共交通の整備をはじめとした町の課題に対応していきたい。」、吉田和弘岐阜大学長から、「岐阜大学は日本一の地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにして、新たなイノベーションにより、地域に貢献していきたい。また、学生の学ぶ場の提供をお願いし、共に学べるような連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、岐阜大学と安八町は、人材育成及び公共交通、交流人口に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書にサインする吉田学長



吉田学長と岡田町長を囲んで集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/1	岐阜	まちづくり、岐阜大と連携 安八町が協定締結 ～ 吉田和弘 学長 ～
2023/11/3	中日	持続的な町づくりへ 岐大と包括連携協定 安八町
2023/11/24	読売	安八町と岐阜大 町づくりで協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

SPARC-GIFU地域連携プラットフォームを結成

【概要】

岐阜大学は、令和4年度に採択された大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」の一環として、「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」（SPARC-GIFU）の活動を開始しています。このプログラムでは、産業界、行政、高等教育機関、金融機関等の協力により地域連携プラットフォームを結成し、地域社会が求める人材の明確化やそれに即した教育を促すことで、地域社会のニーズに即した人材育成に取り組むこととしています。

11月20日（月）に、「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」を結成し、第1回運営協議会を開催しました。その後、構成団体が出席した記者会見を実施しました。「SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム」は、地域社会が求める人材像を明確に定義し各大学等に示すとともに、それに即した事業に取り組んでいるか評価を実施することで、SPARC-GIFU事業の駆動部として機能する役割を果たしていきます。

記者会見では、SPARC-GIFU事業責任者である岐阜大学杉山副学長からSPARC-GIFU地域連携プラットフォームの概要を説明し、代表に選出された長良川温泉女将伊藤会長から「地域社会が真に必要とする人材育成を実現し、地域社会の発展と課題解決に寄与する生きたプラットフォームをつくっていききたい」と結成に係る挨拶を行いました。次に、構成団体を代表して岐阜県及び株式会社十六銀行から抱負と期待が述べられました。最後には、SPARC-GIFU事業関係大学として岐阜大学吉田学長、中部学院大学江馬学長及び岐阜市立女子短期大学畑中学長から連携教育に関する展望が述べられました。

今後は、SPARC-GIFU地域連携プラットフォームが地域社会との連携を強化し、必要な人材を育成するためのプログラムを継続的に展開していきます。また、さまざまな機関や企業と協力しながら、地域の発展に向けた取り組みをさらに加速させ、地域社会のニーズに応えるための活動を積極的に推進していきます。



挨拶をする伊藤代表



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/25	日本経済	地域活性化へ 人材育成組織 岐阜大など14社・団体～「SPARC-GIFU市域連携プラットフォーム」～

愛知銀行および中京銀行と 「産学連携活動の協力に関する協定」を締結

【概要】

岐阜大学は、11月22日(水)に株式会社愛知銀行（頭取：伊藤 行記）および株式会社中京銀行(頭取：小林 秀夫)と「産学連携活動の協力に関する協定」を締結しました。本協定は、本学の学術研究の振興とその成果を地域経済の活性化に繋げるための産学連携活動において相互に協力していくことを目的とするものです。

県外地域との緊密な関係を強化するため、愛知県に本店を置く金融機関との連携協定締結は初めての取り組みとなります。

締結式では、王副学長（産学連携担当）が「本学の強みである、ものづくり、ライフサイエンスを中心に、企業の皆さんと協力しながら地域の活性化に貢献していきたい」と述べました。

今後は、本協定締結によって互いの連携を強化し、地域社会との一体感を高めながら、地域経済の活性化および両行の取引先企業の課題解決支援に向け、より一層貢献していきます。



集合写真

(左より) 愛知銀行鈴木取締役、岐阜大学王副学長、中京銀行村尾取締役

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/25	中日	愛知銀・中京銀 岐阜大と協定 産学の連携強化へ ～ 王志剛 副学長 (産学連携担当) ～

垂井町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和5年12月12日（火）に垂井町と連携に関する協定を締結しました。本学と垂井町は、これまでも大学教員が庁舎建設や小中学校教職員対象の研修を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と垂井町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは34件目です。

協定締結式では、早野垂井町長が「岐阜大学と連携を密にすることにより、広範囲の知見や学生の発案から町の課題である人口減少やDX推進など、一歩ずつでも対応していけるように連携を図っていきたい」と述べました。吉田岐阜大学長からは「岐阜大学は日本一の地域中核大学を目指しています。垂井町にはものづくりの企業が多く立地しており、学生の実習や若い研究者の学びとなる場を提供していただくなど、地域定着・地域貢献につながる連携を図っていきたい」と挨拶がありました。

今後、本学と垂井町は、人口減少及びDX推進に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



懇談の様子



協定書を手にする（左）早野町長と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/25	中日	愛知銀・中京銀 岐大と協定 産学の連携強化へ ～ 王志剛 副学長（産学連携担当） ～

神戸町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年1月22日（月）に神戸町と連携に関する協定を締結しました。本学と神戸町は、これまでも大学教員が防災に関する講演会や訓練、看護学生の実習の受入を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と神戸町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは35件目です。

協定締結式では、藤井神戸町長が「岐阜大学とこれまで防災や看護学生の受入れなどで連携を深めてきた。これまで以上にレベルアップした防災研修や看護実習の実施のみならず、教員や学生にまちづくりワークショップなどへ参加いただき、より一層広範囲の知見や学生の柔軟な発想をいただくなど、町の活性化につながる連携を期待している」と述べました。吉田岐阜大学長からは「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。神戸町にはものづくりの企業が多くあり、特産のバラや小松菜などの生産も盛んである。学生の実習や若い研究者の学習・研究の場の提供をお願いするとともに、次世代の若者たちが働きやすく、暮らしやすいまちづくりを目指して、連携を図っていきたい」と挨拶がありました。

今後、本学と神戸町は、人口減少及び防災対策に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書を手にする（左）藤井町長と吉田学長



特産のバラの花束贈呈後の（左）藤井町長と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/1/23	岐阜	地域の福祉充実へ連携 神戸町と岐阜大が協定 ～ 吉田和弘 学長 ～
2024/1/25	中日	岐阜大と神戸町が協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

池田町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年2月13日（火）に池田町と連携に関する協定を締結しました。本学と池田町は、これまでも大学教員が人口ビジョンに関する会議や特産品の認定審査に関わるなど連携を進めてきました。本協定では、本学と池田町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは36件目です。

協定締結式では、岡崎池田町長が「岐阜大学とこれまで、まちづくりに関する取り組みで連携を深めてきた。わが町は自然豊かで、夜景や温泉でも有名な名所も多くあり、連携協定締結を機に、さらに進む人口減少に備えて、町の特徴を活かしたまちづくりを貴学と連携して、進めていきたい。」と述べました。吉田岐阜大学長からは「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。池田町にはライフサイエンスの企業が多くあり、学生の実習や若い研究者の学習・研究の場の提供をお願いするとともに、学生たちが池田町の自然や観光名所を勉強させていただき、まちづくりにつながる若者ならではの提案を行うなど、若者が集まるまちづくりを目指して、連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、本学と池田町は、人口減少対策及び人材交流に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



懇談の様子（左）岡崎町長と吉田学長



協定書を手にする（右）岡崎町長と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/14	中日	持続可能な町へ学生の提言を 池田町が岐阜大と ～ 吉田和弘 学長 ～
2024/2/17	岐阜	政策提言、人材育成で協力 岐阜大と池田町が連携協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、 学生が揖斐川町に住み始めます

【概要】

本学は、揖斐川町と「岐大生 住んでみよう!」プロジェクトを開始し、学生が揖斐川町に住み始めます。

本プロジェクトは、自家用車を利用し30分程で本学と行き来できる揖斐川町のアパート等に、本学学生が居住できる仕組みを創り、安心・安全に大学での勉学・研究に勤しむことのできる良好な学習・研究環境、生活環境を整備するとともに、学生が、地域の草の根的な活動等にも積極的に参加することで地域の活性化やにぎわい創出に繋げ、地域貢献を果たすことを目的としています。

本学学生の約6割は愛知県出身者で、電車とバスを乗り継いで通学しており、特にJR岐阜駅でのバスの乗り換えは、長蛇の列で不便を感じています。一方、揖斐川町においては、少子高齢化、過疎化が進み、若者の流出、人口減少、地域の衰退が課題となっています。本学と揖斐川町は、平成28年1月に包括連携協定を締結しており、特に応用生物科学部において、授業や研究活動で連携した活動を進めており、そのご縁もあって、今回このような取組を実施することとなりました。令和6年2月26日(月)には揖斐川町と本プロジェクトに関する協定を締結しました。

本学と揖斐川町は、実施にあたり1月から入居希望者の募集や選定を行い、入居者を決定しました。入居する学生は4月から揖斐川町のアパート等に居住し始めます。

本学は学生の教育研究環境の整備を進めると共に、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



本プロジェクトに関する協定書を手にする岡部町長（左）と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/27	中日	住んで知ろう 揖斐川町の魅力 町と岐阜大が協定 大学から30分 住宅提供 ～「岐大生住んでみようプロジェクト」、吉田和弘 学長～
2024/2/27	岐阜	学生ライフ 揖斐川町で 地域行事に参加、家賃は無料 町と岐阜大が協定 ～「岐大生住んでみようプロジェクト」、吉田和弘 学長～

第1回SPARC-GIFUシンポジウムを開催

【概要】

令和6年3月13日（水）に、第1回SPARC-GIFUシンポジウムを岐阜大学講堂において対面形式及びWebでの同時配信にて開催しました。

このシンポジウムは、地域活性化人材育成事業～SPARC～への採択を契機とした一般社団法人高等教育ネットワーク岐阜の設立及びSPARC-GIFU地域連携プラットフォームの結成を記念し、岐阜地域でのSPARC事業（SPARC-GIFU）の紹介を行うとともに、今後の展望を産官学金各団体とディスカッションするために開催し、当日は対面参加・Web参加合わせて100名以上の方に参加いただきました。

初めに主催者である岐阜大学、中部学院大学及び岐阜市立女子短期大学の各学長から挨拶があった後、文部科学省高等教育局大学教育・入試課の山田課長補佐からSPARC事業の説明、各大学からSPARC-GIFU事業の活動紹介がありました。その後、山梨大学の奥田理事・副学長から招待講演をいただき、SPARC-GIFU地域連携プラットフォーム加盟団体によるパネル・ディスカッションを行いました。

パネル・ディスカッションでは、産官学金の各方面から現状の課題やSPARC-GIFU事業への期待などが活発に意見交換され、会場からは「大学だけでなく、企業等様々な角度からのお話が聞けたことがよかった」「大学教育の中で、社会と接点を持ち、社会の課題解決に取り組むという体験が重要であるという発言に共感した」などの声が寄せられ、今後の事業推進に際してとても有意義な場となりました。

今後ともSPARC-GIFU事業に邁進してまいりますので、本事業へのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



吉田学長による挨拶



パネル・ディスカッションの様子

白川町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年3月14日（木）に白川町と連携に関する協定を締結しました。本学と白川町は、これまでも大学教員が住環境に関する受託研究や地域学校協働活動の促進にかかる支援を行うなど連携を進めてきました。

本協定では、本学と白川町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは37件目です。

協定締結式では、佐伯正貴白川町長が、「岐阜大学とは、これまで、多方面で連携を深めてきた。わが町の人口は、年々200人ずつ減少しており、大変深刻な状況にあり、少子高齢化が加速している。若い世代の人口が少ないので、ぜひ学生さんや若い方の意見をいただき、町の特産である白川茶や木材産業を盛り上げることにより、地域定着を図っていけるよう、貴学と連携して、進めていきたい。」と述べました。吉田和弘岐阜大学長からは、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。白川町の特産品を活かしたライフサイエンスや創薬といった分野で、学生の学ぶ場の提供をお願いするとともに、人口減少や多くの課題を解決に導く人材育成に貢献するなど、連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、本学と白川町は、人口減少対策として、関係人口創出の取り組みであるオンラインコミュニティの運営とふるさと返礼品の商品開発に関することを中心に連携を深め、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書にサインする佐伯町長（左）と吉田学長



協定書を手にする佐伯町長（左）と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/3/31	読売	岐阜大と白川町 地域人材育成へ 包括連携協定 締結 ～ 吉田和弘 学長 ～

川辺町と連携に関する協定を締結

【概要】

岐阜大学は、令和6年3月26日（火）に川辺町と連携に関する協定を締結しました。

本学と川辺町は、これまでも大学教員がまちづくりや小学校再編、防災に関する連携事業を行うなど連携を進めてきました。本協定では、本学と川辺町が、多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。

なお、本学が岐阜県内の地方自治体と包括連携協定を締結するのは38件目です。

協定締結式では、佐藤光宏川辺町長が、「岐阜大学とは、これまで、まちづくりに関しては10年来、防災については定期的に研修をお願いし、ボート部においては、昨年の全国大会などでお世話になっており、連携を深めてきた。わが町の人口は、令和2年に初めて9,860人となり、10,000人を下回った。今後も減少が著しく、大変深刻な状況にある。対応策などについて、ぜひ、先生方の知見や学生さん、若い方の意見をいただき、当町からも貴学へ勉強にうかがうなど、一緒に町の活性化に向けて取り組んでいきたい。」と述べました。吉田和弘学長からは、「岐阜大学は日本トップクラスの地域中核大学を目指しており、産業・まちづくり、ものづくり・食づくり、医療づくり、人づくりを強みにしている。川辺町の特徴を活かしてライフサイエンスや環境エネルギー、観光、人材育成といった分野で、お役に立てるのではと考えている。学生の学ぶ場の提供をお願いするとともに、人口減少や地域活性化に向けてともに考え、今まで以上の連携を図っていきたい。」と挨拶がありました。

今後、本学と川辺町は、人口減少による少子化対応として、小学校統廃合の課題や町民の防災意識向上に取り組み、安全で住みやすいまちづくり、地域創生に向けて共に取り組んでいきます。



協定書を手にする（左）佐藤町長と吉田学長



懇談の様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/4/2	中日	人材育成 岐阜大とタッグ 川辺町が連携協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

大学病院



- ・ 医学部附属病院 小倉 真治 高次救命治療センター長が 令和5年度救急医療功労者 厚生労働大臣表彰を受賞
- ・ 肝硬変患者における外的刺激に対する反応速度と正確性の低下を国際多機関共同 観察研究により証明
- ・ クリスマスツリー点灯式を開催
- ・ 能登半島地震被災地より当院DMATの第1次隊が帰院
- ・ 東海環状・飛騨医療ネットワーク協定締結式を実施
- ・ 国立がん研究センターと教育・研究・医療等の包括的連携協力に関する協定を締結



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

医学部附属病院 小倉 真治 高次救命治療センター長が 令和5年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞

【概要】

令和5年度の救急医療功労者厚生労働大臣表彰の受賞者として、医学部附属病院 小倉 真治 高次救命治療センター長が選ばれました。本表彰は、厚生労働大臣が、都道府県知事の推薦のもと、長年にわたり地域の救急医療の確保や救急対策の推進に貢献した個人や団体、医療機関の功績を称えるものです。

今回の受賞は、ドクターヘリ事業の立ち上げや院内外における医療連携の強化に尽力するとともに、長年にわたりメディカルコントロール協議会に携わるなど、地域の救急医療の確保及び推進に貢献したことによるものです。

令和5年9月8日（金）には、都道府県会館にて表彰式が行われました。



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/9/2	岐阜	令和5年度救急医療・産科医療功労者厚生労働大臣表彰 【救急医療・個人】～医学部附属病院 高次救命治療 センター 小倉真治 センター長～

肝硬変患者における外的刺激に対する反応速度と正確性の低下を国際多機関共同観察研究により証明

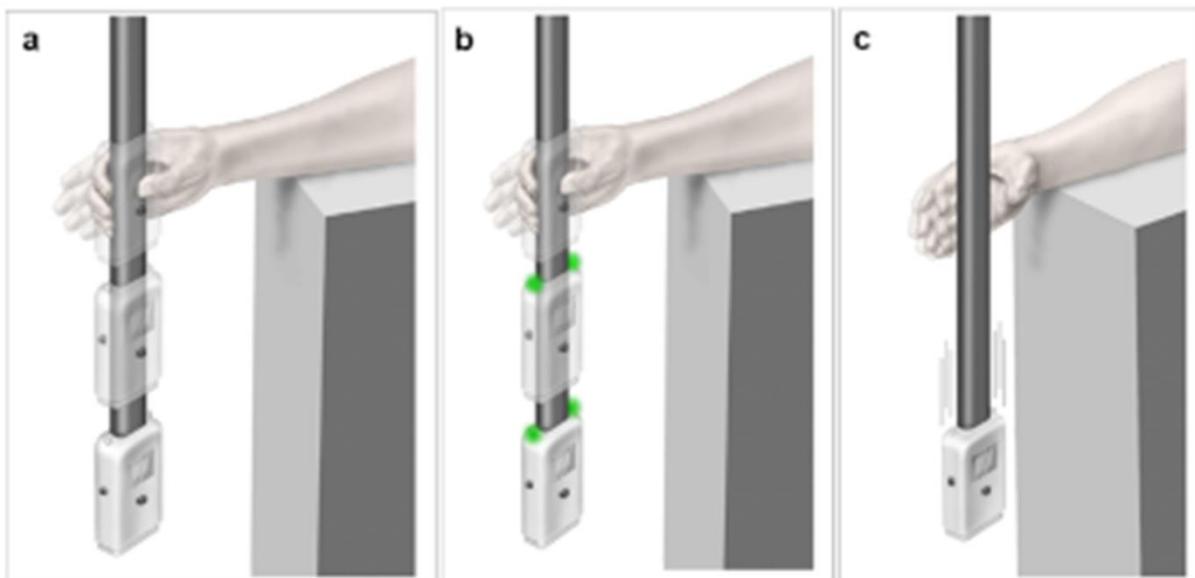
【概要】

肝硬変患者は交通事故や転倒あるいはそれに伴う骨折などの不慮の事故が多いことが知られています。岐阜大学大学院医学系研究科 消化器内科学分野 三輪貴生医師らのグループは、肝硬変患者では外的刺激に対して瞬時に正確に動作する神経機能が低下していることを明らかにしました。

本研究では、肝硬変患者 160 名と肝硬変のないコントロール群 160 名を対象とし、米国で開発された「落ちてくる棒を掴むあるいはそのまま落とす」という単純な動作を用いたデバイス (ReacStick) を用いて、外的刺激から 0.4 秒以内の反応速度と正確性を調査しました。その結果、肝硬変患者では肝硬変のないコントロール群と比較して有意に反応速度および反応の正確性が低下していることが示されました。外的刺激に対する反応速度や正確性は、従来測定方法がないため十分に調査されていませんでした。ReacStick を用いた本研究の結果により、肝硬変患者においては外的刺激に対する反応速度と反応の正確性の低下が明らかとなり、本研究結果は世界に類を見ない貴重な研究成果となりました。また、肝硬変患者の神経機能検査法である ReacStick とナンバーコネクションテスト B(numberconnection test-B : NCT-B)を比較してどちらが肝硬変患者を特徴づけるのに有用かを検討しました。その結果、ReacStick で測定した反応速度は NCT-B よりも肝硬変患者の神経機能を捉えていることが明らかとなり、ReacStick は NCT-B よりも肝硬変患者の神経機能を捉えるのに優れたデバイスである可能性が示唆されました。

三輪医師らの研究により肝硬変患者は外的刺激に対する反応速度や反応の正確性が低下していることが明らかとなりました。本研究成果は肝硬変患者における不慮の事故のリスク評価と健康寿命の延長に寄与することが期待されます。

本研究成果は、日本時間 2023 年 11 月 17 日に Geriatrics & Gerontology International誌で発表されました。



ReacStickによる短潜時神経機能の測定

クリスマスツリー点灯式を開催

【概要】

令和5年11月27日（月）、病院1階イベントコーナーにおいて、クリスマスイルミネーションの点灯式を開催しました。

イベントコーナーには高さ3.5メートルのクリスマスツリー、中庭には可愛いサンタクロースや雪だるまの人形を設置し、訪れる皆さんに楽しんでいただけるようにイルミネーションを施しています。

点灯式では、病院長の挨拶に続き、さわやかサービス推進室長と会場に集まった皆さんでカウントダウンを行い、イルミネーションが一斉に点灯されました。

アンサンブル・ジョーカーレの皆さんによるコンサートも行われ、クリスマスソングや楽曲にまつわる素敵なお話を聴きながら、和やかなひとときを過ごしました。

クリスマスイルミネーションは来年1月中旬頃までお楽しみいただけますので、ぜひご覧ください。



点灯式の様子

能登半島地震被災地より 当院DMATの第1次隊が帰院

【概要】

令和6年1月1日（月）に発生した能登半島地震の被災地より、岐阜大学医学部附属病院DMAT（災害派遣医療チーム）の第1次隊が5日（金）夜に帰院しました。

同チームは、医師2名、看護師2名、業務調整員（薬剤師）1名で構成され、派遣要請を受けて2日（火）に出発し、公立能登総合病院、市立輪島病院等で医療活動を行ってきました。今回、5日早朝に出発したDMAT第2次隊が現地到着したことに伴い、引継ぎを終えて1次隊が帰院したものです。

【DMAT隊員からのコメント】

吉田（隆）医師：「先陣として、安全を担保しながら災害支援を行うことがいかに難しいことか、改めて感じました。被災された方々に寄り添うことは重要ですが、目前のことだけに捉われない、攻めの活動方針が、時には重要であると学びました。母校の後輩が必死に頑張っている姿には、感動させられました。」

福田（哲）医師：「被災地域に向かうことの危険性を感じずにはいられない派遣でした。また病院機能を地域に寄り添いながら維持することの大変さを痛感いたしました。」

白木看護師：「身の危険を感じる活動でした。災害看護の遂行の難しさを痛感いたしました。」

山岸看護師：「近隣組織との普段からの交流が、人や物がいない中での協働活動を支えていると、改めて感じる派遣でした。また、迅速かつ十分な活動の難しさを認識させられた4日間でした。」

鈴木業務調整員（薬剤師）：「被災者でありながら、病院機能を維持するために必死に仕事されている職員の方々をおいて、短期支援で戻ることには複雑な思いでした。また、被災者自らが復興をはじめている姿を目にして被災地域で生きることの厳しさを感じました。」

活動を終了したチーム員へは、病院長から労いの言葉が述べられました。
岐阜大学医学部附属病院では、今後も引き続き支援を行っていく予定です。



5日夜、DMAT第1次隊が帰院



5日朝、DMAT第2次隊が出発

東海環状・飛騨医療ネットワーク協定締結式を実施

【概要】

岐阜大学医学部附属病院と岐阜・西濃医療センター西濃厚生病院、中部国際医療センター、高山赤十字病院は、令和6年1月31日（水）に「東海環状・飛騨医療ネットワークに関する協定」を締結しました。

本協定は、岐阜県に所在する東海環状自動車道沿道及び飛騨地域の急性期医療を担う病院が協力して、良質かつ高度な医療を効率的に提供できる医療体制を確保することを目指し、ネットワークを設立して検討を行い、地域医療の発展に寄与することを目的とするものです。

協定締結式にて、秋山病院長からは「4月から医師の働き方改革が始まり医師の勤務時間が制限されていく中、どのように地域医療を維持・継続していくかを議論するネットワークを構築することで、医療連携を密にし、これからの岐阜県の地域医療を支えていきたい」との挨拶が述べられました。

今後、当院はこれらの3病院とさらなる連携を深め、地域医療の活性化に貢献してまいります。



締結式の様子



集合写真

国立がん研究センターと教育・研究・医療等の 包括的連携協力に関する協定を締結

【概要】

本学は、令和6年2月27日（火）に国立がん研究センターと教育・研究・医療等の包括的連携協力に関する協定を締結しました。

本協定は、両機関の包括的な連携協力のもと、相互の機関の更なる発展を目指し、がん領域での教育・研究・医療活動の一層の充実と質の向上を図り、もって、学術及び医療の発展と有為な人材の育成に寄与することを目的とするものです。

協定締結式では、中釜国立がん研究センター理事長が「当センターが構築した基礎研究から臨床実装に至るシームレスな医療シーズ開発のプラットフォームと大規模な医療・オミックスデータ基盤を岐阜大学の研究者と共有することが可能となり、両組織の有する革新的なコンセプトに基づく多様な医療シーズの開発力強化と開発の加速において相乗的な効果が期待できる」と述べました。

吉田学長は「包括協定を締結することで、治験・臨床研究だけでなく、基礎研究から臨床応用までの過程で関係部局と連携・協力し、共同研究プログラム開発を推進することができるようになる。また、がん患者さんにより効果的な治療を提供するための多様な取り組みを展開し、新たな医療シーズの創出や開発に取り組むことが可能となる」と述べました。

今後、本学と国立がん研究センターは、本協定に基づき、教育・研究・医療等多方面で連携を進めていきます。



挨拶する吉田学長



協定書を持つ中釜国立がん研究センター理事長（左）と吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/3/2	岐阜	がん医療向上へ連携 岐阜大と国立研究センターが協定 ～ 吉田和弘 学長 ～

学生活動等



- ・ 応援奨学生決定通知書交付式を実施
- ・ 岐阜県新酒鑑評会において岐阜大学大学院の学生が岐阜大学長賞の選考を実施
- ・ 本学学生がVR/ARの国際大会で大賞を受賞
- ・ 本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2023」で優秀賞(2位)等を受賞
- ・ 本学教育学部附属小中学校の特別支援学級生徒の絵をあしらった手提げ紙袋を作成
- ・ 本学学生チームが「愛知県大学対抗ハッカソン "HackAichi+ 2023"」で最優秀賞等を受賞
- ・ 岐阜大学フォーミュラレーシングが「学生フォーミュラ日本大会2023」において総合3位を獲得
- ・ 本学学生チームがVR大会「IVRC2023」において複数の賞を受賞
- ・ 岐阜大学環境サークルG-ametが複数の大会で賞を受賞
- ・ 「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催
- ・ 本学学生チームがプログラミング作品の制作大会「技育CAMPアドバンスVol.4」において大賞を受賞
- ・ 学生の提案で「丸亀シャカシャカ揚げうどん」が商品化



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

応援奨学生決定通知書交付式を実施

【概要】

令和5年4月10日（月）、令和5年度岐阜大学応援奨学生に対し決定通知書交付式を行いました。

岐阜大学では、平成22年度から"岐阜大学基金"による事業の一環として、人物及び学業成績において優れ、他の学生の模範となる学生に奨学金を支給することにより、学業を応援し、優れた人材を育成することを目的に、応援奨学生の制度を実施しています。今年度は24名が選ばれました。

交付式では、吉田学長から通知書が手渡され、「岐阜大学基金の支援事業の趣旨を十分理解し、さらに勉学に励み、有意義な学生生活を送ってもらえることと期待しています。」と挨拶があり、杉山副学長からは本事業の原資となる岐阜大学基金についてスライドを使った説明がありました。

応援奨学生を代表して太田 己琴さん（医学部看護学科 3年）は、「いただいた奨学金を最大限有効に活用し、これからも学業に専念していきたいと思います。」と抱負を述べました。

今後も岐阜大学は、学生の学業を応援し、優れた人材を育成していきます。



決定通知書交付を受ける学生



挨拶をする吉田学長



学生と関係者との集合写真

岐阜県新酒鑑評会において岐阜大学大学院の学生が 岐阜大学長賞の選考を実施

【概要】

第30回岐阜県新酒鑑評会において、岐阜大学大学院自然科学技術研究科の学生が岐阜大学長賞の選考を行いました。

岐阜県新酒鑑評会は岐阜県にある蔵元が新酒の出来栄を競うものです。岐阜大学の敷地内には岐阜県食品科学研究所があり、2019年より学生を対象とした清酒醸造実習が実施されていることから、実習修了生を審査員とする岐阜大学長賞が創られました。

選考を行った学生からは、「学生が岐阜の日本酒を評価することに緊張しましたが、醸造実習で学んだ官能評価基準を基に若者も飲みやすい日本酒という基準で評価させていただきました。」という感想が聞かれました。

令和5年4月12日（水）にはホテルグランヴェール岐山において表彰授与式が行われ、学長から表彰状を授与しました。

岐阜大学はこれからも地域と共に岐阜を盛り上げていきます。



選考の様子



授与式での集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/4/13	岐阜	県新酒鑑評会 県知事賞に4点選出 ～ 大学院2年 山本明日香さん ～
2023/4/13	中日	新設・岐阜大学長賞など表彰 県新酒鑑評会, 岐阜で36点 ～ 大学院2年 山本明日香さん ～

本学学生がVR/ARの国際大会で大賞を受賞

【概要】

2023年4月12日（水）～16日（日）にフランスで開催されたVR/ARの国際大会「Laval Virtual」において、自然科学技術研究科1年 小木曾 直輝さん、阪井 啓紀ひろきさん、酒井 康希さんが製作した、VR作品「MEcholocation」が大賞（ReVolution #Research部門）を受賞しました。「Laval Virtual ReVolution #Research」は、フランスで毎年行われる、VR/ARを「研究」の観点から取り上げたコンペティションです。

「MEcholocation」とは、コウモリやイルカなどの動物が持っていることで知られているエコロケーション（音の反響を頼りに物の位置や形を認識する能力）を、VR空間で舌打ち音の反響を視覚化することで疑似体験できる作品です。本作品は、工学部 木島 竜吾 准教授が担当する講義「情報工学実験3」において製作し、その後改良を加えたものです。学生たちは、「見えない」という一見するとネガティブな体験を、見えない"のに"歩けた、座れた、触れた、という不思議で夢中になれるものへと昇華させたいという思いでこの作品を製作しました。

5月16日（火）には、学生3人と指導教員の木島准教授が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。代表の小木曾さんは「VR作品の製作で得た技術を応用して今後新たなものを開発していきたい」と話しました。吉田学長からは「今回の独創的なアイデアを活かし社会に役立てられるよう、今後の新たな挑戦にも期待しています」と激励しました。



受賞報告の様子



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/5/17	中日	舌打ち音を可視化 暗闇の空間を把握 岐阜大院生3人 VRの国際大会で大賞 「視覚障害者の差別なくす契機に」 ～自然科学技術研究科1年 小木曾直輝さん、阪井啓紀さん、酒井康希さん～
2023/5/20	岐阜	岐阜大院生3人 国際コンペ大賞「新たな技術を作れた」 舌打ち音を視覚化、VRで「反響定位」体験 ～自然科学技術研究科1年 小木曾直輝さん、阪井啓紀さん、酒井康希さん～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2023/5/16	NHK岐阜 「まるっと! ぎふ」 18:30～19:00	フランスで開催されたVR/ARの国際大会「Laval Virtual」で大賞（ReVolution #Research部門）を獲得。吉田学長へ報告する様子を紹介 自然科学技術研究科 1年 小木曾 直輝さん、阪井 啓紀さん、 酒井 康希さん 工学部電気電子・情報工学科 木島 竜吾 准教授

本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2023」で優秀賞(2位)等を受賞

【概要】

令和5年6月17日(土)に行われましたTongaliビジネスプランコンテスト2023において起業部に所属する本学学生4チームが優秀賞(2位)等を受賞しました。

Tongaliビジネスプランコンテストは、東海地域(愛知県・岐阜県・三重県・静岡県)のすべての大学の大学生・大学院生を対象とし、大学発ベンチャーの創出と起業家育成を目的としたコンテストです。

6月29日(木)には、受賞チームの代表者が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。受賞者からはコンテストで披露したビジネスプランの報告があり、「来月には登記を行う」など今後の見通しを学長に伝えました。吉田学長からは、受賞チームへのアドバイスと激励がありました。

〔受賞メンバー〕敬称略

- ・優秀賞(2位)、サポーター賞(大和証券賞、三菱商事賞、JR東海賞、トランコム賞)、愛知県賞、オーディエンス賞
チーム名: Umai Japan
テーマ: 農作物ブランド「Umai」のサプライチェーン構築
応用生物科学部3年 杉本 稜太、応用生物科学部3年 伊藤 思音
- ・Tongali賞(3位)、サポーター賞(OKB賞)
チーム名: LiemPia
テーマ: clemy ～私を賢くするアプリ(clever me)～
教育学研究科2年 西垣 快眞、自然科学技術研究科1年 酒井 康希
- ・Tongali賞(5位)
チーム名: TradeWind
テーマ: 日本が世界に誇るカードゲーム文化を未来に続く形に
工学部3年 小林 功英、工学部3年 小和田 仰生
- ・サポーター賞(BNV賞)
チーム名: bybanana
テーマ: バナナパウダー革命: バナナの可能性を最大化し、社会的変革を起こす
応用生物科学部3年 伊藤 思音、応用生物科学部3年 杉本 稜太



受賞報告の様子



集合写真

～学生活動等～

本学学生チームが「Tongaliビジネスプランコンテスト2023」で優秀賞(2位)等を受賞

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/30	中日	岐阜大起業部4チーム 上位入賞 東海の学生ビジネスコンテスト ～ 「Tongaliビジネスプランコンテスト2023」【優秀賞】応用生物科学部3年 杉本稜太さんらのグループ～
2023/7/3	岐阜	岐阜大チーム準優勝 東海学生ビジネスプランコンテスト 学長に喜び報告 ～ 吉田和弘学長, 応用生物科学部3年 杉本稜太さん, 自然科学技術研究科1年 酒井康希さん, 工学部3年 小林功英さん, 応用生物科学部3年 伊藤思音さん～

本学教育学部附属小中学校の特別支援学級生徒の 絵をあしらった手提げ紙袋を作成

【概要】

本学教育学部附属小中学校の特別支援学級の生徒の絵をあしらった手提げ紙袋を作成しました。

これまでも本学では、特別支援学級の生徒さんに役員の名刺を作成していただいたり、生徒さんの制作製品をイベントや来客時に手渡すグッズとして活用しています。

このたびは、イベントや来客時によく使用する手提げ紙袋用の図柄の制作を特別支援学級の生徒さんに依頼しました。制作された紙袋の図柄は、鳥や昆虫、自然などの絵をあしらったものとなっています。

令和5年9月27日（水）に、手提げ紙袋の図柄を提供いただいた特別支援学級7～9年生を大学にお招きし、感謝状贈呈式を行いました。学長からは「素晴らしい絵を描いてくれてありがとうございます。思いの詰まった絵だということを感じながら見せていただきました」と感謝の気持ちを伝えました。生徒さんからは「いろいろな色を使ったり、立体的になるように頑張って描いた」「多くの人に見てもらい、喜んでもらいたい」等のお話がありました。



集合写真



作成した手提げ紙袋

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/9/28	中日	特支生のイラスト手提げ袋に 岐阜大付小中 同大で来客に配布 ～ 教育学部附属小中学校9年 宮崎葵さん、吉田和弘 学長 ～
2023/9/30	岐阜	紙袋に生き物いっぱいデザイン 大学で活用 岐阜大付小中校の特支学級生 鳥や虫、カラフルに ～ 教育学部附属小中学校9年 宮崎葵さん、吉田和弘 学長 ～

本学学生チームが「愛知県大学対抗ハッカソン "HackAichi+ 2023"」で最優秀賞等を受賞

【概要】

令和5年8月7日（月）～9月9日（土）に行われた「愛知県大学対抗ハッカソン "HackAichi+ 2023"」に出場した本学学生チームが最優秀賞等を受賞しました。

ハッカソンとはソフトウェアのエンジニアリングを指す「ハック」と「マラソン」を組み合わせた造語で、ITを活用して新たなサービスや製品等の開発を競い合うイベントです。

本学学生チームはハッカソンにおいて、新入社員や実習生への技術継承の場面での標準化を目指すことを目標に、IoTとAIの技術を用いて、熟練者の工具の使い方を定量化し、熟練者と新入社員や実習生との道具の使い方を比較することにより、新入社員や実習生が上手く道具を使えるようになるデバイス・システムを提案しました。

9月29日（金）には、今回の成果について、学生チーム及び指導教員による吉田学長への報告会が行われました。

ハッカソンに出場した学生は、「コツが必要だが言葉で伝えにくいことを可視化でき、同じように見える作業も可視化すると実施者によって全然違うことが分かり驚いた。今回出来たことを後輩に伝え、さらに後輩が進んだことをしてほしい」と述べ、吉田学長は、「課外活動で期間も決まっているという限られた時間の中でも解決策を提示できていることに岐阜大学として誇りに思います」と称えました。



学長報告の様子



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/9/30	中日	岐阜大工学部チーム最優秀 製造業 新人への技術継承手助け 「ハッカソン」で課題解決のシステム開発 ～ 吉田和弘 学長、工学部機械工学科4年 中谷尚生さん、古田雄大さん、矢野凌羽さん、高橋篤史さん ～
2023/10/1	岐阜	岐阜大チームが最優秀賞 岐阜、愛知の大学対抗IT活用大会 工学部4人 工具の使い方支援 ～ 吉田和弘学長、工学部機械工学科4年 中谷尚生さん、古田雄大さん、矢野凌羽さん、高橋篤史さん ～

岐阜大学フォーミュラレーシングが「学生フォーミュラ日本大会2023」において総合3位を獲得

【概要】

令和5年8月21日（月）～9月2日（土）にオンライン及び小笠山総合運動公園（静岡県袋井市）で行われました「学生フォーミュラ日本大会2023」において、本学学生チームが過去最高となる総合3位を受賞しました。本大会は、学生が自ら構想・設計・製作した車両により、ものづくりの総合力を競う大会です。

10月30日（月）には、学生3人と指導教員の菊池准教授が吉田学長を訪問し、受賞の報告を行いました。学生からは「昨年の大会では振るわなかった動的審査で良い成績を出すことが出来た。培った知識を後輩に引き継いでいき、ゆくゆくはトップを目指せるチーム作りをしたい」と話しました。吉田学長からは「メンバーや資金、学生フォーミュラに取り組める環境などに限りがある中で3位をとれるということはすばらしいし、技術の伝承や東海地区のものづくりを若い人が意識していることに感動した。今後の優勝を期待しています」と激励しました。



作成した車体



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/7	中日	岐阜大のレーシングサークル 学生全国3位 最高の走り 設計見直す/部品精度向上 ～レーシングサークル「岐阜大学フォーミュラレーシング」～

本学学生チームがVR大会「IVRC2023」において 複数の賞を受賞

【概要】

本学学生チームが、11月18日（土）～19日（日）にかけて開催されたVRの大会「IVRC2023」において、岐阜の伝統行事「鶺鴒」を題材にしたVR作品を披露し、複数の賞を受賞しました。IVRC(Interverse Virtual Reality Challenge)とは、学生を中心としたチームでVR作品等を企画・制作するVR大会の名称で、日本VR学会が主催するイベントです。

学生チームは、岐阜の伝統行事「鶺鴒」を多くの人に楽しく知ってもらいたいという思いから、鶺鴒の鶺になることができるという新たな発想を取り入れ、本作品を制作しました。長良川うかいミュージアムを訪れ、鶺匠による鶺鴒実演の様子を見学しながら詳しい説明を聞き、また、実際に観覧船に乗って鶺鴒を間近で体験するなど、取材に基づいて制作を行い、よりリアルな体験ができるようこだわりました。本作品では、はじめに体験者が椅子に座ってお辞儀をすることで、VR空間の水中に潜って鮎を探することができます。その後、鮎を見つけて鮎が光ったタイミングで体を起こし、頭を上に向けて鮎を捕まえることができます。この時、鶺のくちばしを模した装置によって捕まえられた鮎が暴れる感覚を再現し、首に着けた装置によって鮎を飲み込んだかのような感覚を体験することができます。

今回の受賞の一つ「Laval Virtual Prize」によって学生チームは、2024年4月にフランスで開催されるVR/ARの国際大会「Laval Virtual」への招待出展が決まり、世界の舞台上で日本の伝統行事体験を披露します。

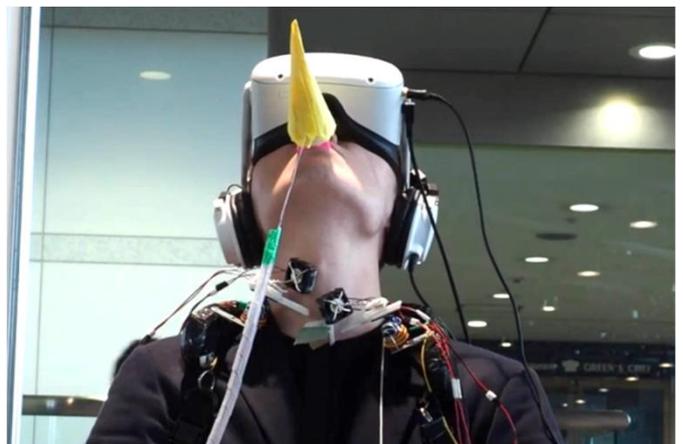
12月13日（水）には、今回の受賞について学生チーム及び指導教員が吉田学長へ報告を行いました。

チーム代表の藤嶋さんは、「今回の受賞によって来年4月には、岐阜の長良川のように川があるフランスのLaval市でこのVR作品を出展します。私たちの作品を通じて、世界中の方々に鶺鴒の文化を楽しく知っていただくために、作品を更にブラッシュアップさせて、フランスの大会に臨みます」と今後の展望を語りました。吉田学長からは、「鶺鴒の鶺になることができるという発想がとても面白い。ぜひ長良川うかいミュージアムさんと連携しながら、岐阜の伝統文化である鶺鴒を楽しく紹介してほしい。フランスでの大会もがんばってください」と激励しました。

本学は引き続き、地域の伝統文化を世界へ広める活動に取り組む学生たちを応援していきます。



記念写真



鶺が鮎を捕まえる体験をしている様子

本学学生チームがVR大会「IVRC2023」において複数の賞を受賞

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/12/16	中日	岐阜大生、アユ丸のみ体験をVRに リアリティ追及 鵜になりきって 来年4月国際大会に出場 ～ 工学部電気電子・情報工学科4年 藤嶋駿輔さん、早崎雅人さん、藤井俊輔さん、星野想空さん～
2023/12/22	朝日	鵜に変身 川潜りアユごくり VRで疑似体験 岐阜大生が作品 ～ 工学部電気電子・情報工学科4年 藤嶋駿輔さん、早崎雅人さん、藤井俊輔さん、星野想空さん～
2023/1/28	岐阜	鵜なりきり鮎を丸のみ 岐阜大生がVR作品 暴れて喉通る刺激再現 ～ 工学部電気電子・情報工学科4年 藤嶋駿輔さん、早崎雅人さん、藤井俊輔さん、星野想空さん～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2024/1/10	NHK岐阜 「まるっと! ぎふ」 18:30～19:00	工学部学生チーム「鵜匠」が制作した、岐阜の伝統行事「鵜飼」を題材にしたVR作品について紹介 工学部 電気電子・情報工学科4年 藤嶋駿輔さん、早崎雅人さん、 藤井俊輔さん、星野想空さん

岐阜大学環境サークルG-ametが複数の大会で賞を受賞

【概要】

岐阜大学環境サークルG-amet（ジャメット）が、サステイナブルキャンパス推進協議会（CAS-Net JAPAN）2023年次大会およびASCN（アジア・サステイナブルキャンパス・ネットワーク）2023年次大会において複数の賞を受賞しました。

●サステイナブルキャンパス賞2023

学生活動部門 奨励賞：「岐阜大学植物マッププロジェクトの取り組み ～ミドリイロノジンセイを目指して～」

特別賞：表彰式の受賞講演において最も優れたプレゼンテーションに贈られる賞

●ASCN 2023年次大会

LIFE ON LAND PRIZE：「キャンパス植物マッププロジェクト」の活動発表

12月13日（水）には、環境サークルG-ametの学生11名が学長室を訪れ、吉田和弘学長に受賞の喜びとサークルの活動内容について報告しました。

受賞した学生は「私たちの植物マッププロジェクトの活動を評価いただき、大変嬉しく思っています。SNSを用いた植物の情報発信や植物観察イベントの開催などを引き続き行い、植物の楽しさや面白さを多くの方に伝えることを目指してこれからも活動していきたい」と語りました。吉田学長からは「この取り組みを後輩たちへ引き継ぎ、さらにサークル活動を進化させていってほしい」と激励の言葉を述べました。

岐阜大学は、今後も環境に配慮した活動を推進し、サステイナブルなキャンパスの実現を目指します。



サステイナブルキャンパス賞2023表彰式の様子



学長報告時の集合写真

「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催

【概要】

本学は、教育学部附属小中学校の児童生徒を対象に「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催しました。

このコンクールは、十六銀行と締結した環境保全における連携に関する覚書の一環として、SDGsについて考え、省エネ、環境美化運動やごみ減量など身近な視点から、エコ活動を啓発する目的で実施したものです。

ポスターの募集企画は13回目、厳正な審査の結果、最優秀賞、優秀賞、十六フィナンシャルグループ賞各1作品を決定しました。

12月14日（木）には、本学学長室にて受賞作品の表彰式を行いました。表彰式では、受賞した児童生徒一人一人に吉田学長より表彰状が、十六銀行の杉野常務執行役員より副賞が手渡されました。吉田学長からは「すばらしい作品ばかりでした。今回の作品に込めた思いを、普段の活動でも心がけ、また、その活動をまわりの人々にも広めてほしい」、杉野常務執行役員からは「どの作品も見てわかりやすいポスターでした。こうしたエコ活動によってみなさんがさらに成長されるのを楽しみにしている」と言葉がかけられました。これを受け、丸山附属小中学校統括校長は「児童生徒たちの視点で環境を見つめ、表現できているところが良かったと思います。この取り組みを通して、児童生徒の主体的な学びの場を得られたことに感謝し、今後もこの学びを継続して行ってほしい」と述べられました。

また、最優秀賞を受賞した7年生の林怜永さんは「エコ活動啓発ポスターによって、一人ひとりが大切なことを伝えていきたい」と思いを語りました。

受賞作品はこれまで本学の図書館に展示され、地域の方も含め多くの方にご覧いただきました。今後は、十六銀行加納支店で令和6年1月9日（火）～19日（金）、十六銀行岐南支店で令和6年1月22日（月）～2月2日（金）の期間展示する予定です。

本活動が環境について考えるきっかけとなり、エコ活動が広がっていくことを期待しています。



受賞した児童・生徒との記念撮影

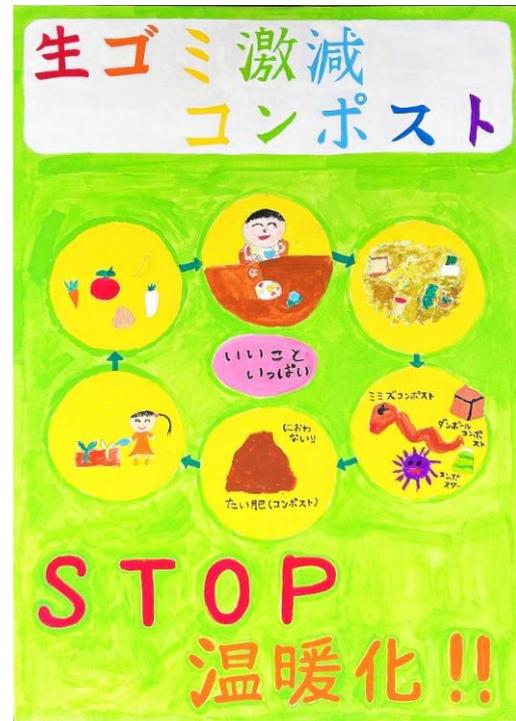
「考えようSDGs！エコ活動啓発ポスターコンクール」を開催

受賞作品

■最優秀賞



■優秀賞



■十六フィナンシャルグループ賞



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/12/19	岐阜	エコ啓発ポスター 入賞者3人を表彰 岐阜大付小中と十六銀 ～教育学部附属小中学校7年 林怜永さん～

本学学生チームがプログラミング作品の制作大会 「技育CAMPアドバンスVol.4」において大賞を受賞

【概要】

本学学生チームが、最新のAIを用いた声質変換Webサイト「AIずんだWeb」を制作し、2023年12月16日（土）に東京で開催された「技育CAMPアドバンス2023 Vol.4」において大賞を受賞しました。

「技育CAMPアドバンス」は、株式会社サポーターズが主催し、毎月開催している「技育CAMPハッカソン」の受賞者のみが参加可能な上位の大会です。ハッカソンとは、ハック（hack）とマラソン（marathon）を組み合わせた造語で、エンジニアを目指す学生たちが短期間で集中してプログラミング作品等の開発を競い合うイベントです。11月に開催されたハッカソンにおいて本学学生チームは最優秀賞を勝ち取り、このたびの上位大会に臨みました。

学生チームは、誰でも手軽に声質変換を利用して楽しんでもらえるようにするため、Web上で録音ボタンを押して自分の声を録音するだけで任意のキャラクターの声質に変換することができる画期的なサイト「AIずんだWeb」を開発しました。

1月18日（木）には、今回の受賞について学生チーム及び指導教員が吉田学長へ報告を行いました。

チーム代表の中尾さんは、「チームとして短い開発期間の中で一つの作品を制作することの難しさやチームマネジメントの重要性を感じました。このAI声質変換が普及していくことで、知識のない一般の方にも私たちが開発した技術を体感してほしい」と述べました。その場で実際に声質変換を体験した吉田学長は、「自分が発言した声の抑揚までそのまま変換されていて驚きました。ぜひこのような素晴らしい技術を応用して、病気によって声を失ってしまった人でも自分の声のように発音することができるサービスの開発などにつなげていってください」と期待を寄せました。

これからも本学は、新たな可能性に挑戦し続ける学生たちを応援し、更なる成果と技術の発展を期待しています。



学長報告の様子



記念写真

～学生活動等～

本学学生チームがプログラミング作品の制作大会「技育CAMPアドバンスVol.4」
において大賞を受賞

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/19	岐阜	岐阜大4人が大賞 技術者目指す全国の学生「技育CAMP」 AI活用 声質変換アプリ制作 ～ 工学部電気電子・情報工学科 中尾元紀さん ～
2024/1/23	中日	声の変身 アプリで簡単 岐阜大生4人が開発 全国大会大賞 ～ 工学部電気電子・情報工学科 4年 中尾元紀さん、伊藤伸さん、板谷幸四郎さん、土田裕登さん ～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2024/1/19	チャンネルCCN エリアトピックス715	学生チーム「ずんだ」の学長への受賞報告の様子を紹介

学生の提案で「丸亀シャカシャカ揚げうどん」が商品化

【概要】

2022年に開催された「第2回トリドール持続可能ビジネスコンテスト」で、本学社会システム経営学環の大橋茉実さんと與川美佑さん（1期生：3年生）が、食品ロス削減に向けた商品「丸亀シャカシャカ揚げうどん」を提案しました。この商品は、令和6年2月27日（火）から岐阜・埼玉県内の2店舗で限定販売されています。

「トリドール持続可能ビジネスコンテスト」は、トリドールホールディングスが主催し、ビジネスにおける社会課題の解決と利益追求の両方を持続することが可能な企画を学生が提案するコンテストです。本学の学生は、食品ロス削減を目的として、規格外となったうどんを使用した商品の提案を行いました。その提案が評価され、2023年2月から実現化に向けたプロジェクトがスタートしました。学生は丸亀製麺の協力を得ながら、試作を重ねて商品開発に取り組み、このたび商品化が実現しました。

「丸亀シャカシャカ揚げうどん」は、きなこ味とのり塩味の2種類があります。フレーバーをかけてシェイクすることで、全体に味が均等に広がり、一層の風味を楽しめます。価格は240円（税込）で、岐阜県では、丸亀製麺岐阜東店で限定販売されています。

今回、本商品の企画から商品化まで携わった本学社会システム経営学環の大橋さんと與川さんからは、「本商品を多くの人に楽しんでいただきたい、うどんの新食感・新しい食べ方について知ってほしい、という想いを込めて企画しました」「幅広い年齢層に受け入れられるような商品にするために、多くのミーティングや試食を重ねながら開発しました」「この「丸亀シャカシャカ揚げうどん」をきっかけに、沢山の方に笑顔の輪が広がることを願っています」などのコメントが寄せられました。

本学は、これからも持続可能なビジネスと地域社会への貢献を目指す学生の取り組みを応援し、さらなるイノベーションを生み出すことに期待しています。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/3/22	中日	丸亀製麺 規格外活用し販売 カリッとやみつきシャカシャカ揚げうどん 岐阜大生のアイデア基に商品化～社会システム経営学環3年 大橋茉実さん、與川美佑さん～



その他



- ・ 創立74周年記念日行事を開催
- ・ 本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが日本陸上競技選手権大会で初優勝
- ・ 岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念行事を開催
- ・ 岐阜大学発認定ベンチャーFiberCrazeの長曾我部代表取締役社長がForbes JAPANが選ぶ日本発「世界を変える30歳未満」の1人に選出
- ・ 教育学研究科修了生の赤松選手が世界陸上男子走高跳で8位入賞
- ・ 岐大酒を酒造している「蔵元やまだ」がKURA MASTER 2023年度 プレジデント賞を受賞
- ・ 図書館1階アカデミック・コアの愛称が「Sky ACADEMIC CORE」に決定
- ・ 第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023を開催
- ・ 第74回岐阜新聞大賞
- ・ 岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施
- ・ 全学共通教育棟1階多目的ホールの愛称が「IBIDEN Innovation Hub」に決定



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学

創立74周年記念日行事を開催

【概要】

本学は令和5年6月1日で創立74周年を迎えたことから、講堂にて学内外の関係者など約150名が出席のもと創立記念日行事を執り行いました。

式典は4年ぶりにコロナ禍以前の内容に戻しての開催となり、管弦楽団の演奏から始まり、感謝状贈呈、名誉教授称号授与、産学連携准教授等称号授与などの各種表彰を行いました。また、吉田学長による学長報告では、本学における研究力の強み、産学官連携の状況及び地域活性化に係る実績等について触れられ、今後も地域の中核大学として大きな役割を果たしていく決意が語られました。

その後、第55回岐阜大学フォーラムとして中京大学教養教育研究院の風間教授をお招きし、「DEIB宣言～岐阜大学の今とこれから～」というテーマのもと、基調講演が行われました。風間教授は講演を通じて、様々な調査結果に基づいた大学の多様性に係る現状と課題について提言されました。それを受けて、本学の工学部リム教授、応用生物科学部山根准教授、地域科学部在学学生加藤さん及び教育学部卒業生松原さんに登壇いただき、「多様性・公正性・包摂性・帰属感を考える」をテーマに自身の経験等を踏まえたリレートーク&フリーディスカッションが行われました。

岐阜大学は、これからも、多様性(Diversity)、公正性(Equity)、包摂性(Inclusion)を積極的に推進して、構成員が帰属感(Belonging)を得られる組織であり続けられるよう、様々な取り組みを展開していきます。



学生表彰の様子



学長報告の様子



風間教授による講演の様子



リレートーク&ディスカッションの様子

本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが 日本陸上競技選手権大会で初優勝

【概要】

6月1日（木）～4日（日）にかけて大阪で行われた「第107回 日本陸上競技選手権大会」において、2020年に本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんが男子走高跳に出場し、自己新記録を更新する2m29cmを跳び、同大会で初優勝を果たしました。

6月9日（金）には、赤松さんと専任コーチである陸上競技部顧問の林陵平助教が学長室を訪問し、優勝報告を行いました。赤松さんは「練習の成果が出て自己新記録で初優勝をすることができて自信につながった。来年のパリ五輪出場を目標に夏の国際大会でも新記録を狙いたい」と話しました。吉田学長からは、「自己新記録と初優勝おめでとうございます。パリ五輪出場に向けて引き続きコーチの林先生と共に頑張ってください」と激励しました。



優勝報告の様子



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/5	岐阜	男子走り高跳び 赤松（岐阜大院出）初優勝 「世界で戦える選手に」 ～ 赤松諒一さん（岐阜大卒業生）～
2023/6/12	中日	赤松選手「初優勝自信に」 日本選手権走り高跳び 岐阜大で喜び ～ 医学系研究科研究生 赤松諒一さん、教育学部 林 陵平 助教, 吉田和弘 学長 ～
2023/6/14	岐阜	赤松「世界選手権参加標準を狙う」 赤松や河村らがアジア選手権へ 代表発表 ～ 赤松諒一さん（教育学研究科修了）～

岐阜大学農学部・応用生物科学部 創立100周年記念行事を開催

【概要】

令和5年6月3日（土）に「岐阜大学農学部・応用生物科学部創立100周年記念行事」を開催し、記念講演会、記念植樹式、最古の日本製トラクター復活デモンストレーション、創立100周年記念式典及び創立100周年記念祝賀会を実施しました。

記念講演会では、土川健之第14代日本中央競馬会理事長に講演いただきました。記念植樹式では「ヒメユズリハ」の苗木に、吉田学長、光永学部長が「土かけ」を、杉山副学長、柵木同窓会長が「水やり」をおこないました。トラクター復活デモンストレーションは、大変多くの見学者が集まり、熱心な質問も投げかけられるなど大変盛り上がりを見せました。

記念式典では、光永学部長式辞の後、河合副知事、柴橋岐阜市長、松尾東海国立大学機構長、吉田学長からの祝辞があり、これまでの農学部・応用生物科学部の歩みとともに、新たな時代における学部への大きな期待が述べられました。

100周年記念誌編集委員長向井譲フェローから100年の歩みの紹介、100周年を機に作成した1977年から2003年までの岐大祭みこしパレードDVDを杉山副学長が紹介、古き良き時代に思いを馳せた笑いもあり、和やかな式典となりました。

祝賀会では、応用生物科学部と岐阜県食品科学研究所のコラボレーションによるクラフトビール「多望之春 各務」のお披露目があり、参加者に振舞われました。

来賓の方々、同窓生、教員OB、現職教員が親交を深めつつ、100周年を祝うにふさわしい充実円満な1日となりました。



式辞を述べる光永学部長



オンライン開催となった記念講演会
講師：土川日本中央競馬会第14代理事長



記念植樹式の様子



クラシックトラクター復活デモの様子

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/5	岐阜	節目の100周年, 250人祝う 「研究拠点としてけん引」 ～ 応用生物科学部 光永徹 学部長 ～
2023/6/5	岐阜	創立100周年の岐阜大応用生物科学部 独自清酒酵母でビール ～ 「多望之春-各務」 応用生物科学部 中川智行 教授 ～
2023/6/12	朝日	清酒酵母でクラフトビール 岐阜大応用生物科学部が開発 苦み少なく味わいすっきり ～ 「多望之春-各務」 応用生物科学部 中川智行 教授 ～
2023/6/30	中日	清酒酵母で岐阜大「ビール」 学部創立100年 知識生かす ～ 応用生物科学部 中川智行 教授 ～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2023/7/18	NHK岐阜 「まるっと! ぎふ」 18:30～19:00	岐阜大酵母を使用したクラフトビール、 岐阜大学エール「多望之春-各務」について 応用生物科学部 中川智行研究室所属学生

岐阜大学発認定ベンチャーFiberCrazeの 長曾我部代表取締役社長がForbes JAPANが選ぶ 日本発「世界を変える30歳未満」の1人に選出

【概要】

岐阜大学発認定ベンチャーFiberCraze株式会社の代表取締役社長であり、本学卒業生の長曾我部 竣也さんが2023年8月24日にForbes JAPANの『FORBES JAPAN 30 UNDER 30 2023 日本発「世界を変える30歳未満」120人』に選ばれました。

この賞はForbes JAPANが2018年より開催し、30歳未満の次世代を牽引する若い才能に光を当てるものです。長曾我部さんはSCIENCE & TECHNOLOGY& LOCAL部門での受賞となりました。

同社は工学部 武野教授の発明した特許を活用し、長曾我部さんが岐阜大学在学中に立ち上げたベンチャー企業であり、ナノサイズの"あな"空きフィルム・繊維に、あらゆる機能を付与させた高機能素材の開発を目指しています。また、同社は本学の認定ベンチャー制度に基づき、2021年10月に岐阜大学発認定ベンチャー第7号に認定され、大学としても手厚くサポートを実施しております。

〔長曾我部さん受賞コメント〕

この度、『Forbes JAPAN 30 UNDER 30 2023』にご選出いただけたこと、大変光栄に存じます。2年前、FiberCrazeは20年以上の基礎研究を経て確立された特許技術をコアとして立ち上がりました。岐阜の地域から新たな素材を生み出していく弊社の取り組みに対して、ご評価を頂きとても嬉しく思います。日頃ご支援を頂いているすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

FiberCrazeのミッション「世界が誇る素材を創る」を実現するため、我々の強みである研究開発力とともに、岐阜地域を中心としたものづくりに関する高い技術力を結集させ、新素材の開発にチャレンジし続けます。先日の資金調達を起点に、より一層事業成長を加速させ、チーム一同邁進してまいります。一緒に突き進んで頂ける方、ご興味持って頂いた方、ぜひカジュアルにお話しさせてください！

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/8/11	岐阜	岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」 高機能繊維素材、量産挑む 試作機開発4000万円調達 ～ 岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長曾我部竣也さん ～
2023/8/11	中部経済	4社から4000万円調達 多孔化技術で高機能性素材開発 岐阜大発ベンチャーファイバークレーズ ～ 岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長曾我部竣也さん ～
2023/8/13	中日	岐阜大発のベンチャー企業に計4000万円 繊維開発へ4社共同出資 ～ 岐阜大発ベンチャー「ファイバークレーズ」社長 長曾我部竣也さん ～

教育学研究科修了生の赤松選手が 世界陸上男子走高跳で8位入賞

【概要】

本学大学院教育学研究科修了生の赤松諒一選手が、8月19日（土）～27日（日）の日程でハンガリー・ブダペストのナショナル・アスレチックス・センター（国立競技場）で行われた「2023年世界陸上競技選手権大会」の男子走高跳に日本代表選手として出場し、見事8位入賞を果たしました。

予選では、跳び始めの2m14cmから2m28cmまで、すべて1回目の跳躍で成功させる堂々の全体1位タイ記録で予選を突破し、決勝への進出を決めました。

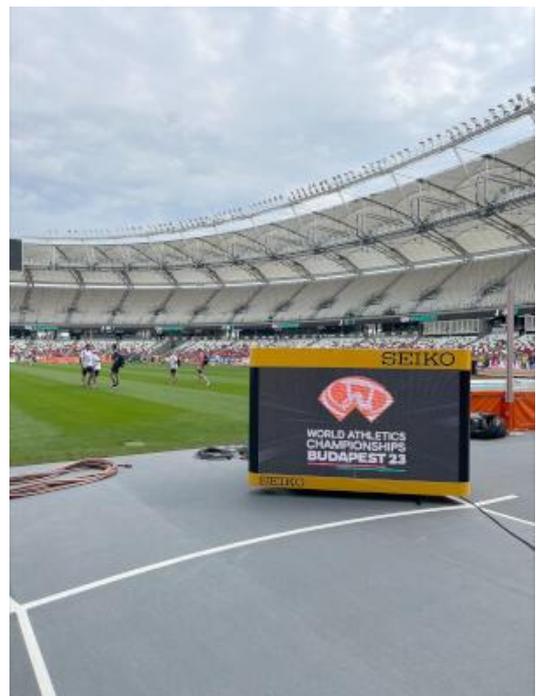
決勝では、2m20cm、2m25cmを1回目の跳躍で成功させ、予選から続けて7回連続での跳躍成功となりました。その後、2m29cmの跳躍に3度挑戦し、惜しくも成功することはできませんでしたが、全体の結果で見事8位入賞を果たしました。

赤松選手は「応援していただいた皆様、ありがとうございました。今回の世界陸上では目標としていた決勝への進出と8位入賞を達成することができました。しかし、予選と同じ跳躍をすることができればもう少し上を狙えるような試合であったため、悔しい思いも残る結果となりました。来年のパリオリンピックでは、メダル獲得を目標にこれから力を付けていきたいと思っております！」と力強く語りました。

赤松選手に帯同していた本学教育学部保健体育講座助教の林専任コーチは「ご声援いただいた皆様、ありがとうございました。今大会までの過程を振り返ると、お互いが成長することで新たなものを創造し、各々が創造したものを1つの形にすることができたと感じています。次はオリンピックでのメダル獲得に向けて再挑戦していきます。岐阜大学からオリンピックへ！皆様ご声援をどうかよろしく願いいたします。」と今後の抱負を語りました。



記念写真
(左から赤松選手、林専任コーチ)



国立競技場内観

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/8/3	中日	走り高跳びの赤松選手 5日に公開練習 大垣市北公園、参加者を募集 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/8	岐阜	赤松（岐阜大院出）世界選手権へ 男子走り高跳び、2大会連続 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/15	岐阜	赤松選手「メダル狙う」世界陸上 男子走り高跳び出場 大垣市長に決意 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/21	岐阜	赤松（岐阜大院出）初の決勝へ 5回の試技、全て一発成功 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	岐阜	陸上世界選手権 赤松（岐阜大院出）8位 走り高跳び 昨年予選落ちの雪辱 まだ伸びしろ「五輪で上位を」 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	中日	陸上世界選手権 赤松8位入賞 走り高跳び 異色のジャンパー勲章 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	毎日	28歳医学部研究生 勲章 男子走り高跳び 8位入賞の赤松 ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～
2023/8/24	岐阜	世界陸上閉幕 日本入賞最多 五輪へ弾み ～ 赤松諒一さん（医学系研究科研究生）～

岐大酒を酒造している「蔵元やまだ」がKURA MASTER 2023年度 プレジデント賞を受賞

【概要】

2023年8月28日に岐阜大学オリジナル酵母を使用した日本酒「岐大酒」の製造を担当している「蔵元やまだ」が酒造した玉柏 純米大吟醸がKURA MASTER 2023年度プレジデント賞を受賞しました。

KURA MASTERは2017年から開催されている、フランスの地で行うフランス人のための日本酒コンクールです。2023年度は1090点の日本酒の出品があり、プレジデント賞は最高賞に当たります。

「蔵元やまだ」は岐阜大学の卒業生が家族で営む酒蔵で、令和元年から岐大酒を造っていただいております。岐阜大学としても今回の受賞は誇らしく思います。

岐大酒は学生が岐阜県内で採取した野生酵母を使用し、応用生物科学部 中川智行教授を中心に開発されたもので岐阜大学生協や誠仁会のオンラインショップなどで購入可能です。開発ストーリーについては【関連リンク】「岐阜県内で採取した野生酵母を使った 岐阜大学オリジナル酵母の開発に成功。個性豊かな「岐阜大酒」作りに貢献。」をご覧ください。

【関連リンク】

https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/g_lec/special/38_1.html



「蔵元やまだ」さんに酒造いただいている
岐大酒

図書館1階アカデミック・コアの愛称が「Sky ACADEMIC CORE」に決定

【概要】

本学は、業務系ビジネスシステムの開発をはじめ、カーエレクトロニクスやデジタル複合機、モバイルなどの製品に組み込まれるソフトウェアの開発・評価/検証業務や、情報セキュリティ対策ソフトウェアなどの自社商品の開発・販売に携わるソフトウェア開発会社であるSky株式会社とのネーミングライツ（命名権）契約に基づき、図書館1階の学習スペース、アカデミック・コアの愛称を「Sky ACADEMIC CORE」に決定しました。

本学では、ネーミングライツ事業により得られる収益を、本学の教育及び研究の発展・向上に役立てることを目的にネーミングライツ制度を平成30年から導入していますが、今回が初の契約となります。この愛称は2023年10月1日から2027年9月30日までの4年間使用されます。

10月13日（金）には記念式典を実施し、Sky株式会社から寺下和典執行役員ほか関係者が、本学からは吉田和弘学長ほか関係者が出席しました。吉田学長は挨拶で「Sky ACADEMIC COREが学生の知識を深め、スキルを磨き、未来への道を切り開く手助けになることに喜びを感じている。Sky株式会社様の人材育成や教育研究環境の向上への思いから支援いただいたことに感謝申し上げます」と述べ、寺下執行役員は「Sky ACADEMIC COREを親しみをもって呼んでいただきたい」と述べられました。

本契約を機に岐阜大学とSkyは、Sky ACADEMIC COREの愛称名が多くくの学生に定着するよう努め、教育研究環境の一層の充実に取り組みます。



テープカットの様子



左から、吉田学長、寺下執行役員

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/10/14	中日	岐阜大の一角に命名権 大阪のシステム開発「Sky」と契約 ～ 吉田和弘 学長、「Sky ACADEMIC CORE」～
2023/10/25	読売	岐阜大の施設 命名権契約 初の公募 システム開発会社と ～ 「Sky ACADEMIC CORE」、全学共通教育事務室～

第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023を開催

【概要】

令和5年11月3日（金）に第1回岐阜大学ホームカミングデイ2023を、本学講堂およびYouTubeでの同時配信にて開催しました。このホームカミングデイは、すべての岐阜大学ファンやステークホルダーを対象に、相互の交流・連携を深め、持続可能な相互関係の構築及び相互支援に資する取り組みとして、大学全体として初めて開催したもので、当日は、238名の方に来場いただきました。

午前の部では、岐阜新聞社社主・代表取締役、岐阜放送取締役会長で杉山・栗原環境事務所取締役の杉山 涼子 氏により「地域住民の地平から、SDGsの実現を考える」をテーマで基調講演が行われ、その後、本学のSDGsに関する取組報告がされました。最後に登壇者によるSDGsに関する鼎談が行われ、環境活動の効果的な発信方法などについて杉山 氏から助言を受けました。

午後の部は、最初に吉田学長から大学の動向について報告があり、その後、本学OBで日本農薬株式会社 代表取締役社長の岩田 浩幸 氏により「食の安全と作物保護・農薬の役割」について特別講演が行われました。講演後は、農薬に対する認識が変わったなどの声が聞かれました。続いて、パリ五輪を目指して活躍されているOBの赤松 諒一 氏（アワーズ株式会社）より「これまでの取り組みと2024年パリ五輪に向けて」をテーマに、さらなる高みを見据えた報告がありました。

その後、学生課外活動団体のiGEM Gifu及びユネスコ学生クラブからの活動報告、落語研究会の落語、よさこいサークル騒屋による演舞が行われました。騒屋さんの演舞はとてもパワフルで会場を大いに盛り上げました。

最後に、杉山副学長から岐大祭りこしパレード紹介と閉会の挨拶があり、本会を学生のお祭りである岐大祭とともに大学のお祭りとして盛り上げていきたいと語られ、閉会となりました。来年度も11月に開催予定です。



基調講演をする杉山 涼子 氏



特別講演をする岩田 浩幸 氏

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/11/4	岐阜	SDGsに地域の視点 岐阜大でホームカミングデイ 本社社主らと学生ら鼎談 ～ 第1回ホームカミングデイ2023～

第74回岐阜新聞大賞

【概要】

学識経験者らによる選考委員会（委員長：吉田和弘 岐阜大学長）で慎重に審査した結果、令和5年度「第74回岐阜新聞大賞」が6氏に贈呈され、学術部門では、本学副学長の王 志剛 氏が受賞しました。

贈呈式は令和6年2月10日（土）に岐阜放送本社にて行われました。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/1/9	岐阜	輝く功績 第74回岐阜新聞大賞受賞者：学術部門 塑性加工、可能性広げる ～ 王志剛 副学長 ～
2024/2/1	岐阜	輝く功績 第74回岐阜新聞大賞受賞者 ～ 産業部門 岐阜造園代表取締役会長 小栗達弘氏（岐阜大農学部 農芸化学科卒業）～
2024/2/11	岐阜	地域に貢献、努力結実 岐阜新聞大賞贈呈式 受賞6氏たたえる 古里発展 光る足跡 ～ [学術部門]王志剛 副学長、選考委員長 吉田和弘 学長 ～

岐阜大学基金学長特別表彰贈呈式を実施

【概要】

令和6年2月20日（火）に岐阜大学基金学長特別表彰の贈呈式を実施しました。

この制度は、昨年10月に岐阜大学基金を活用して新たに設けた表彰制度で、本学の教職員及び学生を対象に、国際大会での大賞受賞など本学の名誉を著しく高めたと認められる事由について、学長の裁量で表彰するものです。また、副賞として活動支援金を給付することもできます。

この度、栄えある第1号として、昨年11月18日（土）～19日（日）に開催されたVRの大会「IVRC2023」において、複数の賞を受賞し、2024年4月にフランスで開催されるVR/ARの国際大会「Laval Virtual」へ招待出展が決まり、新聞／テレビで広く報道された工学部学生チームの「チーム鶉匠」に贈呈することにいたしました。

贈呈式では、学長から本制度の設立の経緯などを説明後、「頑張った成果のひとつとして、後輩にも伝えてほしい」と述べられました。学生からは、受賞への謝意とともに「頑張ればいいこと（表彰）もあることを、後輩にも伝えていきます。」と話され、終始、笑顔が絶えない和やかな雰囲気となりました。

本学は、本制度が教職員及び学生のモチベーション・アップに少しでも繋がることを期待しています。



贈呈式の様子



集合写真

全学共通教育棟 1階多目的ホールの愛称が 「IBIDEN Innovation Hub」に決定

【概要】

本学はイビデン株式会社とのネーミングライツ（命名権）契約に基づき、全学共通教育棟 1階多目的ホールの愛称を「IBIDEN Innovation Hub」に決定しました。

本学では、ネーミングライツ事業により得られる収益を、本学の教育及び研究の発展・向上に役立てることを目的にネーミングライツ制度を導入しております。この愛称は2024年4月1日から2029年3月31日までの5年間使用されます。

令和6年3月26日（火）には記念式典を実施し、イビデン株式会社から青木武志代表取締役社長、河島浩二取締役経営役員が、本学からは吉田和弘学長、杉山誠副学長が出席しました。吉田学長は挨拶で、「イビデン株式会社には、国立研究開発法人科学技術振興機構 女子中高生の理系進路プログラム ぎふ理系女子はばたき応援プロジェクトにおいて、女子中高生対象に工学関係の仕事を見学、交流する機会をいただくなど、これまで様々な支援をいただいた。また、この施設は岐阜大学生ならば、講義、就職関連などで必ず利用する親しみのある場所であり、そこに学生が世界へと羽ばたくHubとなるような名前をつけていただいたことに感謝申し上げます。」と述べ、青木代表取締役社長は、「イビデン株式会社は、設立111年目の会社で、170名を超える岐阜大学卒業生が在職しております。多くの方がこの「IBIDEN Innovation Hub」を最大限に活用して、イノベーションを繰り返していただきたい。」と述べられました。

今後は命名権料を活用して、学生の学修環境の整備に取り組んで参ります。



テープカットの様子
(左から) 杉山副学長、吉田学長、青木代表取締役社長、
川島取締役経営役員



(左から) 吉田学長、青木代表取締役社長

東海国立大学機構



- ・東海国立大学機構直轄事業として新たに2つの拠点を認定
- ・研究シーズ検索システムをリリース
- ・岐阜大学・名古屋大学における飛行ロボット（自律滑空機）授業の連携した取り組みが日本機械学会教育賞を受賞
- ・糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟の開所記念式典を挙行
- ・東海国立大学機構債（東海機構コモンズ債）の発行条件を決定
- ・「低温プラズマ総合科学研究拠点」が始動
- ・東海国立大学機構の最先端講義、配信スタート 6月24日キャンパス内で自動運転実演授業を実施
- ・脱炭素社会の実現へ“産産学学官官”連携 カarbonニュートラル共創シンポジウム開催
- ・永岡桂子文部科学大臣が「糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟」を視察！
- ・国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2023を公表
- ・東海国立大学機構初の出資子会社Tokai Innovation Institute設立
- ・東海国立大学機構 統合報告書「INTEGRATED REPORT2023」を発行
- ・財務レポート2023を発行
- ・第1回 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）学長懇談会を開催
- ・川崎重工業株式会社から東海国立大学機構にアーム型ロボット50台を寄贈
- ・東海国立大学機構は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社と人獣共通医療（Sharing Medicine）分野に関する包括連携協定を締結
- ・東海国立大学機構は岐大、名大の新たな連携拠点として「量子フロンティア産業創出拠点」を認定



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



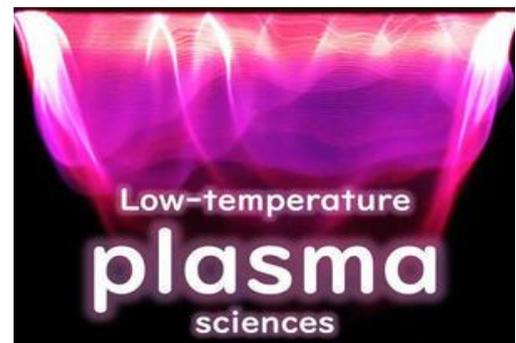
東海国立大学機構直轄事業として新たに2つの拠点を認定

【概要】

東海国立大学機構では、令和5年4月1日から、新たに2つの拠点を機構直轄事業として認定しました。機構直轄事業とは、岐阜大学及び名古屋大学がそれぞれ持つ強み、リソース等を融合し、そのシナジー効果が期待できる先進的かつ挑戦的な取組であり、東海国立大学機構として機構自らが推進すべき事業として認定するものです。認定した事業の活動には、予算措置や直接的な助言等の優遇措置を行います。成果が創出された直轄事業については随時情報提供していく予定です。これら2拠点の今後の研究活動に、どうぞご期待ください。

<低温プラズマ総合科学研究拠点>

名古屋大学・低温プラズマ科学研究センターと岐阜大学・工学部附属プラズマ応用研究センターを統合する低温プラズマ総合科学研究拠点を構築し、両大学が連携をはかりつつ、低温プラズマを中心に据える多様な学問領域の境界を越える学融合領域によって、低温プラズマの新価値創成を進める拠点を形成します。



低温プラズマ科学に関する多様な共同利用・共同研究を国内外の研究者と両大学の強みを相乗的に活かして推進することで、先進プラズマ計測に基づくシミュレーション技術を駆使した基礎学理の探求、半導体デバイスプロセス、機械材料・トライボロジーなどのモノづくりをはじめとし、化学・エネルギーやエアロスペース、医療や農業、様々な分野に革新をもたらすイノベーションがもたらされ、持続可能な開発目標（SDGs）やSociety5.0の実現に発展的に結びつく革新がもたらされることが期待されます。

<One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点>

One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT; Center for One Medicine Innovative Translational Research）は、「ヒトと動物の疾病は共通」すなわち「One Medicine」という視座にたち、医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が分野横断的かつ国内外で施設横断的に連携し、有望な創薬シーズを高度に選別し、臨床応用へつなげる（創薬研究における「魔の川」を克服する）ことでヒトと動物の創薬研究を変革します。



さらに、創薬標的の同定から創薬シーズの開発・育成、非臨床試験、治験までの研究プロセスを一気通貫で管理・推進し、医薬品・医療機器開発企業との共同研究や知財導出を支援できるマネジメント人材を育成して、国内の大学・研究機関に配置することで、オールジャパン体制でヒトと動物の創薬研究を一気に加速させ、「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」という新たな学際領域を開拓します。

研究シーズ検索システムをリリース

【概要】

東海国立大学機構は、令和5年4月6日（木）に岐阜大学・名古屋大学の研究シーズを同時に検索できるシーズ検索システムSeedsSearch+AIをリリースしました。

AIを搭載し、検索キーワードを元に関連キーワードを抽出し、幅広い検索を行うことができます。産学連携をはじめ様々な用途のシーズ・トピック検索としてご利用ください。

AI 搭載のシーズ検索システム

SeedsSearch^{+AI}



東海国立大学機構 / 学術研究・産学官連携統括本部

岐阜大学・名古屋大学における飛行ロボット（自律滑空機） 授業の連携した取り組みが日本機械学会教育賞を受賞

【概要】

岐阜大学・名古屋大学での飛行ロボット（自律滑空機）に関するユニークな取り組みである、飛行ロボット授業優秀機選抜対抗戦！「東海クライマックスシリーズ」が、日本機械学会教育賞を受賞し、令和5年4月20日（木）に表彰式が行われました。

機械航空工学を総合的に理解するためのプログラムとして、岐阜大学と名古屋大学はそれぞれ飛行ロボット（自律滑空機）の設計・製作・評価を行う授業を立ち上げており、岐阜大学では、工学部4年生の選択科目「航空宇宙生産技術（機械工学概論Ⅱ）」として、名古屋大学では、工学部機械・航空宇宙工学科3年生の必修科目「設計製図第3」の3種類用意された選択テーマの内の1つとして開講しています。さらに、この2大学のプログラムの連携を目指して、2021年度から合同競技会「東海クライマックスシリーズ」を岐阜市内のアリーナで開催しています。

競技会では、両大学のプログラム内容の違いによる参加学生の気づきも多く、ユニークな教育効果が現れています。さらに、この競技会の様子はオンラインで一般公開されるとともに、参加学生のアンケートに基づいた学術論文も発表しており、関係者のみならず広くその意義が伝えられていることなどが評価されての受賞となりました。



賞状を手にする原教授（左）と加藤日本機械学会長



東海クライマックスシリーズの様子

糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟の開所記念式典を挙行

【概要】

令和5年5月15日（月）、糖鎖研究の新たな研究拠点である「糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟」の開所記念式典を、岐阜大学構内において挙行了しました。

東海国立大学機構は、文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として「ヒューマングライコムプロジェクト（英語名：Human Glycome Atlas Project：HGA）」（代表：門松健治 東海国立大学機構・理事）を推進しており、この研究棟は本プロジェクトの研究中核拠点として整備されたものです。

式典には、文部科学省から森晃憲研究振興局長、瀬戸信太郎大臣官房文教施設企画・防災部計画課長、岐阜県から河合孝憲副知事、フランス国立科学研究センターからJacques Maleval東京事務所長らが出席しました。

森研究振興局長は、「『ヒューマングライコムプロジェクト』を推進する中、新しく建設されたこの岐阜研究棟が、世界最高水準の優れた糖鎖研究の拠点となり、我が国が世界の糖鎖研究を先導していくことを期待しております」と祝辞を述べました。

また、松尾機構長からは「糖鎖は生命活動に欠かせない重要な分子群ですが、本格的な研究は進んでいないのが現状であり、糖鎖研究を一層加速させようと決意を新たにしました」と述べ、吉田学長、杉山総長の挨拶の後、門松所長からは「糖鎖科学は日本が牽引してきた分野であり、このプロジェクトは日本が先鞭を切り、世界をリードしていきます」と語りました。

式典後は内覧会が参加者に対し行われ、続いて「ヒューマングライコムプロジェクト特別シンポジウム2023」がハイブリッド開催され、国内外より約300名の研究者・学生が参加しました。生命科学の未来のための学術のフロンティアを切り開く先端的なプロジェクトの門出となる貴重な機会となりました。



式典の様子



祝辞を述べられる森文部科学省研究振興局長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/5/16	岐阜	糖鎖研究拠点 開設 岐阜大 認知症など解明へ
2023/5/16	中日	岐阜大に「糖鎖」拠点施設 東海国立大機構など研究 声明科学の発展期待
2023/5/16	毎日	「糖鎖」研究の専用拠点 東海国大機構 岐阜大内に 新設
2023/5/16	日刊 工業	糖鎖の研究拠点 岐阜大で開所式 東海国立大学機構
2023/5/17	中日	健康や老化関係「糖鎖」の構造解析 東海国立大学機 構 岐阜大に研究拠点
2023/5/17	日本 経済	糖鎖の新研究棟 岐阜大が開所式 病気予防など探る

東海国立大学機構債（東海機構コモンズ債）の発行条件を決定

【概要】

- 東海国立大学機構債（東海機構コモンズ債）の発行条件を決定しました。
- 【債券名称】 第1回国立大学法人東海国立大学機構債券 愛称:東海機構コモンズ債
 - 【ESG債区分】 サステナビリティボンド(評価機関:株式会社格付投資情報センター)
 - 【発行額】 100億円
 - 【年限】 20年
 - 【利率/発行価格】 利率:1.187%/発行価格:100円
 - 【条件決定日】 令和5年(2023年)5月26日
 - 【払込日】 令和5年(2023年)6月2日
 - 【償還日】 令和25年(2043年)6月2日
 - 【利払日】 毎年6月2日及び12月2日 (初回利払日:令和5年(2023年)12月2日)
 - 【担保】 一般担保付
 - 【債券格付】 AA+(株式会社格付投資情報センター)、AAA(株式会社日本格付研究所)
 - 【主幹事証券会社】 野村證券株式会社(事務)、大和証券株式会社、みずほ証券株式会社
 - 【受託会社】 株式会社三菱UFJ銀行

詳細は「東海機構コモンズ債」に関する情報(投資家向け情報)(東海国立大学機構Webページ(<https://www.thers.ac.jp/disclosure/investment/index.html>))をご覧ください。

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/5/27	岐阜	大学債で100億円調達へ 東海国立大学機構 研究環境 充実図る
2023/5/27	中日	・「大学自ら資金調達の時代」 国の交付金減, 競争は激化 東海国立大機構 債権発行 ・東海国立大機構 債権100億円発行 中部初 名大施設など整備
2023/5/27	毎日	100億円調達へ大学債 6月 東海国立大学機構
2023/5/27	日本経済	サステナ債 100億円発行 東海国立大学機構 研究設備導入など
2023/5/28	朝日	名大・岐阜大運営の東海国立大機構 研究施設の整備資金 債権で100億円調達へ
2023/5/28	読売	東海機構が大学債100億円 名大・岐大の施設整備費に
2023/5/29	日刊工業	初の機構債 100億円発行 東海国立大機構 研究施設を整備

「低温プラズマ総合科学研究拠点」が始動

【概要】

東海国立大学機構は、半導体の製造など多様な分野での活用が進む「低温プラズマ」の新たな研究拠点を創設しました。

岐阜大学における地域連携による研究の強みと、名古屋大学が半世紀にわたり積み重ねてきた世界トップクラスの研究の強みを結集し、幅広い分野の研究領域を融合した「総合科学研究拠点」として、2023年4月から研究活動をスタートさせました。

研究分野は半導体をはじめ、医療、農業、化学、エネルギー、電気、宇宙、情報、土木、環境、材料...と、多種多様な領域の基礎研究から社会実装を目指す活動までカバーします。

また、両大学だけでなく国内外の大学や研究機関、企業にも広く門戸を開き、「低温プラズマに関することなら何でも解決できる」拠点として運営を目指します。

6月20日（火）、報道機関向けに拠点の紹介とプラズマ科学の魅力を伝える説明会と、拠点の創設を記念した式典とパネルディスカッションを開催しました。



報道関係者向け施設公開



名古屋大学坂田・平田ホールでの設立記念式典

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/6/21	中日	東海国立大学機構 低温プラズマの研究拠点が発足 名大、岐大のセンター統合 バイオや半導体など
2023/6/21	日刊工業	東海国立大学機構 名大・岐阜大で研究拠点 低温プラズマ 基礎・応用機能一本化
2023/7/14	朝日	低温プラズマ研究拠点発足 東海国立大学機構 ～ 低温プラズマ総合科学研究拠点 ～

東海国立大学機構の最先端講義、配信スタート 6月24日キャンパス内で自動運転実演授業を実施

【概要】

東海国立大学機構は6月19日（月）から、高校生や社会人向けに大学の正課外教育コンテンツの一部をインターネットで配信する取り組みを開始しました。

配信を担当するのは、動画配信事業を手掛ける株式会社ドワンゴおよび株式会社KADOKAWA（代表取締役社長：夏野 剛）です。当機構と両社は2022年6月、デジタル技術を活用して共同で次世代人材の育成を目指す包括的提携を結んでおり、その“第一弾”の取り組みです。

また、コンテンツ配信にあわせ、特別講義イベントとして、6月24日に自動運転の実演授業を実施しました。研究用車両が名大キャンパス内を自動走行するとともに、名大が実施する卓越大学院プログラム「ライフスタイル革命のための超学際移動イノベーション人材養成学位プログラム（TMI）」の担当教授が最新技術を紹介し、当日の講義には両社が運営支援する“ネットの高校”「N高等学校」「S高等学校」の生徒が参加しました。なお、より多くの方に取組を知っていただくため、講義の様子はドワンゴが運営する学習サイト「N予備校」で配信するほか、ライブ配信サービス「ニコニコ生放送」、YouTubeでも放送されています。



自動運転の実演授業の様子

脱炭素社会の実現へ"産産学学官"連携 ～ カーボンニュートラル共創シンポジウム開催 ～

【概要】

東海国立大学機構は7月7日（金）、中部経済連合会と連携して第1回カーボンニュートラル共創シンポジウムを名古屋市内で開きました。

名古屋大学と岐阜大学の研究者と企業関係者が、気候変動やエネルギー問題、食の安全といった視点から「循環型社会」への転換に向けた課題や方策などを発表。企業や大学関係者ら80人が来場した他、オンラインで160人が参加し、脱炭素（カーボンニュートラル）社会の実現に向けたビジョンを共有しました。

当機構は、地球温暖化を進行させる要因となる二酸化炭素（CO₂）などの温室効果ガスの発生を抑える脱炭素化の取り組みを加速させようと、カーボンニュートラル推進室を設置。岐阜大学と名古屋大学内にも脱炭素に関連するセンターを置き、CO₂排出削減をはじめ、自治体の脱炭素推進や産学連携による社会実装、人材育成などに取り組んでいます。

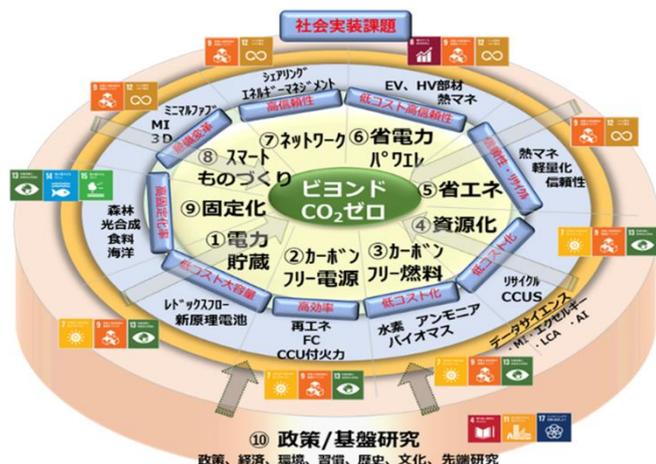
今回のシンポジウムは産学官連携の一環として、中部地方を代表する企業・学校法人・経済団体などで構成される中部経済連合会と共催しました。当機構の松尾清一機構長は「産学官の多様な立場の人たちがつながる場を創り、新たな共創の好事例をどんどん創り出してもらいたい」と参加者に呼び掛け、同連合会の水野明久会長は「官民挙げた取り組みとしてまずは人の交流を促したい。"産産学学官"でカーボンニュートラルを目指す」と意欲を述べました。



シンポジウムの様子



(左から) 東海国立大学機構 松尾清一 機構長、
経済産業省中部経済産業局 寺村英信 局長、
中部経済連合会 水野明久 会長



東海国立大学機構の産学官共同研究の状況

永岡桂子文部科学大臣が 「糖鎖生命コア研究所 岐阜研究棟」を視察！

【概要】

令和5年7月19日（水）、永岡桂子文部科学大臣が生命科学領域において初の文部科学省「大規模学術フロンティア促進事業」として採択された「ヒューマングライコムプロジェクト（英語名：Human Glycome Atlas Project：HGA）」（代表：門松健治 東海国立大学機構・理事）を推進する国立大学法人東海国立大学機構糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟を視察されました。

松尾清一東海国立大学機構長、吉田和弘岐阜大学長らとの意見交換に始まり、門松健治糖鎖生命コア研究所長、安藤弘宗同副所長から糖鎖研究の概要説明がなされた後、意見交換が行われました。永岡大臣からは、「文部科学省として本プロジェクトを応援していきます」と激励の言葉をいただきました。

引き続き研究棟内の最先端設備の視察が行われました。永岡大臣は、研究者からの詳細な説明に熱心に耳を傾けられ、糖鎖研究の最前線を肌で感じられたようでした。その後、永岡大臣と糖鎖研究に携わる学生との交流会が行われました。学生からは、博士課程進学の原因や将来の希望、研究活動する上で困っていることや要望、糖鎖研究の面白さなどが語られ、垣根のない自由闊達な意見交換が行われ、参加した学生にとっては、生命科学の未来を担う若手研究者として大変貴重な機会となりました。

なお、本視察には文部科学省から、大越貴陽大臣秘書官、石川仙太郎大臣秘書官、国分政秀大臣秘書官、櫻木瑤子大臣報道官、黒沼一郎大学研究基盤整備課長が同行されました。

研究棟前において記念撮影。

永岡大臣を中心に、前列左から門松所長、石川秘書官、松尾機構長、吉田岐阜大学長、国分秘書官、高橋局長、後列左から木塚教授、安藤副所長、黒沼課長、佐藤教授、平林特任教授



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/7/20	岐阜	文科相、糖鎖研究所視察 岐阜大で大学院生を激励 ～ 糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟 ～
2023/7/20	中日	農業高校実態把握へ 永岡文科相が視察 北方・岐阜 農林 ～ 糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟 ～

国立大学法人東海国立大学機構環境報告書2023を公表

【概要】

令和5年9月26日（火）、東海国立大学機構環境報告書2023を発行いたしました。

今年度の環境報告書では、新体制となったカーボンニュートラル推進室の室長、副室長への学生インタビュー、省エネアクト for ゼロカーボンキャンパスの取組などの記事を織り込んで、カーボンニュートラル達成に向けた姿勢やその具体的な取り組み内容について紹介しています。また、多数の学生に編集に参加してもらい、学生による研究室インタビューのほか、環境報告書を通じた京都女子大学、京都工業繊維大学の学生との相互交流も実施しました。



※ 環境報告書2023下記のURLよりダウンロードできます。

<https://www.thers.ac.jp/about/publications/environmental/index.html>

東海国立大学機構初の出資子会社Tokai Innovation Institute設立

【概要】

岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構（以下「機構」という。）は、このたび文部科学大臣の認可を受け、初めての出資子会社「株式会社Tokai Innovation Institute」（以下「TII」という。）を令和5年10月2日（月）付けで設立いたします。

複雑で激しく変化し、不確実で、かつあいまいな時代を切り拓く革新的アイデアは、異種との交わりによる化学反応から生まれます。TIIは、企業とアカデミアが境界を超えてつながり、危機感と使命感の中から未来への課題を見つけ、研究成果を社会実装するまで、ワンストップで企業とアカデミアをサポートします。企業の事業・研究戦略とアカデミアの研究、この両者に精通したプロジェクト推進のプロフェッショナルが、機構内外のネットワークを活用し、イノベーションを加速させます。

TIIでは、岐阜大学と名古屋大学が持つ知的成果を俊敏かつ効果的・効率的に産業界へ還元するため、以下の事業内容を行い、機構が取り組む大学・産業界・地域発展の好循環モデル「T-PRACTISS※」の実現に貢献します。

※ T (THERS)-PRACTISS(=Plan to Renovate Area Chubu into Tech Innovation Smart Society)は、機構が目指す、東海地域における地域創生への貢献と国際競争力強化の同時達成モデルです。

記者会見場にて
左から3人目、社長に就任する小池吉繁氏



【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/9/26	中日	産学共同研究 素早く実用化 東海国立大学機構が子会社 モビリティ・新素材など4領域 ～ Tokai Innovation Institute(TII) ～
2023/9/26	日本経済	研究成果事業化 新会社を設立 東海国立大学機構 ～ Tokai Innovation Institute(TII) ～
2023/9/26	日刊工業	東海国立大学機構 初の出資会社設立 モビリティーなど事業化 ～Tokai Innovation Institute(TII)～
2023/9/26	中部経済	初の子会社設立 東海国立大学機構、産学連携を強化 ～ Tokai Innovation Institute(TII) ～

東海国立大学機構 統合報告書 「INTEGRATED REPORT2023」を発行

【概要】

令和5年10月31日（火）、岐阜大学と名古屋大学を運営する国立大学法人東海国立大学機構（以下「東海機構」という。）は、2021年度、2022年度に続き、3冊目となる統合報告書「INTEGRATED REPORT2023」を発行しました。

本報告書は、東海機構を取り巻く経営上のリスクや機会、グローバル社会や地域社会が直面する社会課題を経営上の重要課題と捉え、その解決に向けた取り組みを経営戦略と体系的に結びつけることにより、東海機構、岐阜大学、名古屋大学の現在の価値と将来に向けた価値創造をストーリーとして開示するものです。

また、「大学」の枠を超えて、一般の投資家の方とのコミュニケーションを深めるために、「国際統合報告フレームワーク（IIRC）」を遵守して作成をしております。

本報告書が、東海機構、岐阜大学、名古屋大学が目指す価値創造について、あらゆるステークホルダーの皆様にご理解いただくための一助となれば幸いです。



※ 統合報告書「INTEGRATED REPORT2023」は、下記のURLよりダウンロードできます。
<https://www.thers.ac.jp/about/publications/tougou/tougouhoukokusyo.html>

第1回 東海地域・国立大学連携プラットフォーム (C-FRONT) 学長懇談会を開催

【概要】

東海国立大学機構、岐阜大学、及び名古屋大学を含む東海地域の7国立大学法人8大学が一体となって、それぞれのリソースを有効活用することで、東海地域全体の持続的な発展に貢献しつつ大学群としての国際競争力を高め、様々な課題や社会からの要請に柔軟に対応できる連携の枠組みとして、令和6年1月9日（火）に東海地域・国立大学連携プラットフォーム（C-FRONT）を立ち上げ、名古屋市内の会議室において、第1回の学長懇談会を開催しました。

当日は、学長ら9名全員が参加し、C-FRONTの設立趣旨の確認、期待することや連携したい事項、及び各大学の特色・強みについて意見交換を行いました。

今後は、テーマごとに参加を希望する大学でタスクフォースを作り活動していくとともに、年に数回は学長懇談会を開催し、情報共有を図るとともに産業界、自治体、教育界とも協力しながら、教育、研究をはじめ地域創生や産学官連携、留学生の獲得や国際交流など幅広い分野で連携を図っていくことを合意しました。

なお、次回の学長懇談会は、令和6年春以降の開催を予定しています。

〔参加大学等〕

- ・静岡大学、・浜松医科大学、・東海国立大学機構、・岐阜大学、・名古屋大学
- ・愛知教育大学、・名古屋工業大学、・豊橋技術科学大学、・三重大学



集合写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/12/26	中日	東海の国立大連携 来月に新組織発足、初会合 教育、研究で相乗効果 資金獲得狙う
2023/12/26	中日	名称は「C-FRONT」 来月発足 東海の国立大連携組織
2023/12/26	岐阜	東海8国立大が新組織 来月設立 連携で競争力高める
2023/12/26	日本経済	東海の国立8大学連携 名大など教育・研究分野で
2024/1/10	中日	東海4県国立大 連携確認 C-FRONT発足 トップ初会合 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	岐阜	東海8国立大で発足 国際競争力強化図る連携組織 共同研究や人材交流 視野 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	朝日	8国立大 研究などで連携へ 東海地域 プラットフォームを設立 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	毎日	教育、研究で連携 東海4県 国立8大学 強み共有 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	読売	東海4県国立大 生き残りへ連携 枠組み発足 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/10	日本経済	東海の8国立大 枠組み発足 連携し競争力向上狙う 留学生招へい・教員養成も ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/11	朝日	東海の国立大 連携組織設立 研究や教育タッグ ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～
2024/1/11	日刊工業	東海の8国立大、連携へプラットフォーム 強み生かし地域発展に貢献 ～ 東海地域・国立大学連携プラットフォーム（Cフロント）～

川崎重工業株式会社から東海国立大学機構に アーム型ロボット50台を寄贈

【概要】

東海国立大学機構は川崎重工業株式会社から新型コロナウイルスのPCR検査に使用していたアーム型ロボットを寄贈いただきました。2024年度にも追加で寄贈いただき、合わせて約50台寄贈いただく予定です。

令和6年1月23日（火）には、感謝の意を示す場として「ロボット寄贈式典」を開催しました。式典内では、東海国立大学機構 松尾機構長は「このロボットを活用して、次世代を担う人材の育成と、持続可能な社会の実現に貢献していきたい」と強調され、本学吉田学長は「川崎重工業株式会社様との連携をより深いものにしていきたい」、川崎重工業株式会社航空宇宙システムカンパニー 下川プレジデントは「航空宇宙産業以外の広い分野でも協力していきたい」と述べました。

岐阜大学ではすでに寄贈いただいたロボットにドリルを装着し、高額な工作機械に代わって航空機部材に正確に穴を開ける加工技術を開発することでコスト削減を目指す研究等に活用しております。

その他、学生教育、地域貢献に役立てるように活用してまいります。



東海国立大学機構 松尾機構長 お礼挨拶の様子



本学 吉田学長 お礼挨拶の様子



川崎重工（株）航空宇宙システムカンパニー
下川プレジデント 企業挨拶の様子



左から杉山総長、KHI亀山氏、KHI下川氏、
松尾機構長、吉田学長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/1/24	岐阜	PCRロボ、学びの右腕に 川崎重工、東海国立大学機構へ寄贈 “次の役目”航空研究など活用 ～ 工学部 永井学志 准教授、工学部機械工学科4年 高橋篤史さん～
2024/1/24	日本経済	PCR検査ロボを寄贈 川重、東海国立大学機構に ～ 航空宇宙生産技術開発センター～
2024/1/24	日刊工業	東海国立大学機構、産ロボ寄贈式 川重から双腕型など ～ 航空宇宙生産技術開発センター～
2024/1/25	中日	川崎重工 東海国立大学機構に寄贈 ロボット50台 研究に活用を ～ 工学部機械工学科4年 高橋篤史さん～
2024/1/26	朝日	アーム型ロボット 大学で「第二の人生」 川崎重工、岐阜大へ寄贈 PCR検査で活躍 「技術者育成に使って」 ～ 工学部 永井学志 准教授、工学部機械工学科4年 高橋篤史さん～

東海国立大学機構は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 と人獣共通医療学（Sharing Medicine）分野に関する包括連携 協定を締結

【概要】

東海国立大学機構は、令和6年2月15日（木）に日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社との包括的な産学連携に関する協定を締結しました。

本機構と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社は、これまでも受託研究や共同研究等を通じて連携を進めてきました。本協定は、本機構と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社が、包括的な連携のもと、双方の高度な研究成果、最先端情報、国内外のネットワークを相互に活用して、ヒトと伴侶動物（コンパニオンアニマル）の Well-being の実現（One Medicine（ヒトと動物の疾病は共通という捉え方）による創薬・先端医療研究の革新及び Sharing Medicine の実現）を目的としています。

協定締結式では、ヤンシュテファン・シエルド日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社代表取締役会長兼社長が「One Medicine創薬シーズ開発・育成研究教育拠点（COMIT）が持つ素晴らしい理念は、ベーリンガーインゲルハイムの理念と通じるものです。患者さんのために新たな領域へ果敢にチャレンジするアカデミアの可能性を応援したいと思います」と述べました。

松尾機構長からは「今回の包括連携協定に基づき、さらに両者の関係を強化し、将来的にはCOMITでの創薬研究に加えて、Real World Dataを用いたアンメット・ニーズの探索など、東海国立大学機構全体としての連携関係を広く発展させていきたい」と挨拶がありました。

今後、本機構と日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社は、本協定に基づき、One Medicine による創薬・先端医療研究の革新及びSharing Medicine の実現を加速させていきます。



協定書を持つヤンシュテファン・シエルド日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社代表取締役会長兼社長（左）と松尾機構長



集合写真

～東海国立大学機構～

東海国立大学機構は日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社と人獣共通医療学（Sharing Medicine）分野に関する包括連携協定を締結

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/16	日本経済	ヒト・動物の創薬研究 東海国立大学機構 独製薬と提携 ～ 東海国立大学機構 松尾清一 機構長 ～
2024/2/17	中日	人・動物 共通新薬開発で連携 東海国立大学機構と製薬会社が協定 岐阜大の拠点 研究加速へ ～ 東海国立大学機構 松尾清一 機構長 ～
2024/1/24	岐阜	東海国立大学機構とドイツ製薬大手 「人獣共通」創薬で連携 ベーリンガーインゲルハイム「可能性を応援」 ～ 東海国立大学機構 松尾清一 機構長 ～

東海国立大学機構は岐大、名大の新たな連携拠点として「量子フロンティア産業創出拠点」を認定

【概要】

東海国立大学機構は、岐阜大学と名古屋大学の連携を強化する連携拠点支援事業における支援対象として、「量子フロンティア産業創出拠点」（略称Q-BReD）を新たに認定しました。本拠点は4月に新設される「名古屋大学 未来社会創造機構 量子化学イノベーション研究所」と「岐阜大学 医学部附属量子医学イノベーションリサーチセンター」を連携・拠点化するものです。

令和6年2月21日（水）には、記者会見を開き、松尾清一機構長と、拠点長に就任予定の名古屋大学大学院工学研究科・清中茂樹教授、副拠点長に就任予定の岐阜大学大学院医学系研究科・松尾政之教授が、事業の概要、新拠点の概要、研究内容を説明しました。



説明する松尾教授



集合写真（左から吉田岐阜大学長、松尾岐阜大教授、松尾機構長、清中名大教授、杉山名大総長）

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2024/2/22	中日	量子研究拠点発足へ 東海国立大学機構 3部門に岐大と名大の研究者ら 「化学の視点」診断や創薬に応用 ～「量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）」、副拠点長 医学系研究科 松尾政之 教授（放射線医学）～
2024/2/22	岐阜	量子研究拠点4月開設 東海国立大学機構 新産業を創出 ～「量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）」、副拠点長 医学系研究科 松尾政之 教授（放射線医学）～
2024/2/22	毎日	「第二次量子革命」に乗り遅れるな 東海国立大学機構 連携拠点発足へ ～量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）～
2024/2/22	日本経済	25年度に量子研究施設 東海国立大学機構 ～量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）～
2024/2/22	日本工業	量子技術で連携拠点 東海国立大学機構 20件の産業創出 ～量子フロンティア産業創出拠点（Q-BReD）～